

BERLIN

中島 栄子

BERLIN 人物表

エリック・ミュラー・・・東ドイツ出身。国营工場に勤めながら闇市場で物資の調達をしていた。ラルフの双子の兄。

ラルフ・ミュラー・・・工場地帯に生まれ育ったため喘息もち。エリックの双子の弟。

ローランド・リンク・・・成績優秀だったため大卒。役所勤務。エリック、ラルフ、ルカとは幼馴染。

イレーネ・ケストナー・・・秘密警察シュタージの国境警備隊出身。ドイツ統一後、エリックらの仲間となる。

サラ・フォーゲル・・・秘密警察シュタージのA部隊（国際スパイ）出身。写真記憶の特殊技能を持つ。ドイツ統一後、エリックらの仲間になる。

ソフィア・グラス・・・エリックの仲間の中で唯一の西ドイツ出身。

マーティン・グラス・・・秘密警察シュタージの国境警備隊出身。イレーネ、サラとは同期。ドイツ統一後、西にわたりソフィアと結婚。

フィリップ・バウアー・・・ドイツ統一前のエリックの仲間。

ルカ・ベツカー・・・フィリップの姪。身体能力が高い。

ザビーネ・クライン・・・フィリップの仲間。東ドイツ出身。

サイモン・フックス・・・フィリップの仲間。手先が器用。恋人が途切れたことがない。

ラーク・シュバルツ・・・フィリップの仲間。西ドイツ出身。

ニーナ・アードラー・・・ドイツ警察。公安にあたる課にいる。マネーロンダリング、強盗などの犯罪グループの撤去を担当。敏腕。

カミラ・ハーゼ・・・小児科の医者。東ドイツ出身。

オラフ・クーヘン・・・エリック、ラルフ、ローランド、フィリップ、ルカと同郷。酒屋。

シュタージA・・・秘密警察シュタージ 国内の警備を担当。

シュタージB・・・秘密警察シュタージ 国内の警備を担当。

メアリー・・・ザビーネと同郷の女性。ザビーネの過去を知っている。

加藤裕史・・・福岡に本社のある飯倉出版の契約社員。東ドイツのコラムを書いており、今回本になることになったため、ドイツに取材に来ている。

ベンジャミン先生・・・大学時代の加藤のゼミの先生。東ドイツ出身。

イベント担当A・・・福岡のショッピングモールのイベント担当。

プロローグ

上手 エリック・ファイリップス達（アクション）

暗転

拳銃の音

下手 エリア明かり ラルフ（22）がいる。座っている。

ラルフ

ベルリンの壁が、崩壊して、誰もが、幸せになれると、思った。壁の向こうの、西のように。この東も豊かで幸せになれると、信じていた。

ラルフ、立ち上がる。

ラルフ

世界中の人が祝福してくれた、あの日。自由と退屈が押し寄せてきた、あの日。・・・俺は祖国を失った。俺が生まれ育った国は、歴史の中にしか存在しなくなってしまった。みんな貧乏だったけど、なんでも皆と一緒にやって、足りないものはお互い貸しあって、競争なんかすることなく、ただ、ただ、助け合って生きることができた、あの、温かな・・・。いや、誰がなんと言おうと、俺は東ドイツの人間だ。それは生涯、変わることはないだろう。

暗転

上手 大学研究室

ベンジャミン先生 英字新聞を読んでいる。机に座っている

加藤 ベンジャミン先生、加藤です。

ベンジャミン はい。いいよ。

上手袖より加藤 入ってくる。

ベンジャミン 卒論、決まった？

加藤 いえ・・・、まだ・・・。

ベンジャミン あと、加藤君だけだよ。どうするの？卒論ってすぐ書けるものじゃないんだよ。僕は他の日本の先生と違って、シビアに点付けるからね。わかってる？

加藤 わかっています。・・・。迷ってまして、テーマ。

ベンジャミン やりたいことにしないと最後まで持たないよ。卒論って最後、気力だからね。

加藤 はい。

ベンジャミン いつもみたいに、やってる振りだと乗り越えられないよ。卒論は口は使えないからね。

加藤 ・・・・ああ・・・うう・・・。

ベンジャミン で？

加藤 ヨーロッパのマネーロンダリングにするか、ヨーロッパの若者の失業にするか悩んでて。

ベンジャミン 国際経済学専攻としては、どちらでもOKは出せるけど・・・、マネーロンダリングは・・・。

加藤 ずっと授業でヨーロッパ内の為替やってて、通貨の動きが面白くて。でも資料が、あまり揃わなくて。

ベンジャミン そりゃ、そうだろうね。マネーロンダリングって、表に出たらいけないものだからね。・・・ちょうど僕の国で事件があったみたいだけど。

ベンジャミン 新聞を加藤に見せる。

加藤 東ドイツの元シュタージが、マネーロンダリング？

ベンジャミン といっても、マネーロンダリングについてはあまり詳しく載っていないけどね。

加藤 ……ユーロになる前に動き活発化。……いよいよですね、ユーロ。

ベンジャミン ちょうど授業でやってきたことが、これから起こるよ。統一通貨ユーロの始まりだ。ヨーロッパは新たな局面を迎える。

加藤 統一通貨、ユーロ。まるでこの新聞、光と影って感じですね。ユーロの祝福ムードな一面記事とユーロになることで捕まった人達。

ベンジャミン で、どうするの？この新聞は加藤君にあげてもいいけど。

加藤 いいんですか？

ベンジャミン 失業の方が、資料は揃うと思うけどね。

加藤 ……そうですね。一応そっちも、調べてはいるんです。俺達就職氷河期世代と、ヨーロッパの若者とどっちが悲惨なんでしょうかね。いつでも若者がわりを食っているのは、どこも一緒なんだなって。

ベンジャミン 東ドイツ出身の僕がいうのもなんだけど、今の日本のこの状況は……。

暗転

加藤にだけサスが当たる。

加藤 あれから二十年、今でも氷河期は溶けていない。俺達はまるで存在しないかのように、国に見捨てられたままだ。

暗転

一場

日本のショッピングモールの小さいホール
下手、加藤がいる。

少し離れたところにショッピングモールのイベント担当Aもいる。

加藤

本日はお忙しい中、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。飯倉出版の加藤裕史と申します。今日は、私もよく買い物を見せていただいておりませう、こちらのショッピングモールで出版のイベントをさせていただくということで、とても嬉しく思っております。・・・はい。出版イベントということで、今回は私が書いたこの本を使いまして、東ドイツの話をさせていただければと思っております。そう、ドイツ、行ってきたんです。

加藤、本の表紙を見せる。客席から声が聞こえてくる（ジェスチャー）

加藤

・・・バーリン？あ、これですね、ベルリンです。今のドイツの首都ですね。まあ、本場の発音にはバーリンの方が近いんですけどね。・・・皆様、ドイツって何が浮かびますか？・・・サッカー、ビール、ソーセージ、城。ああ、今年もビールフェスタ、楽しみですよ。去年もその公園のやつ、私も行きました。・・・さて、東ドイツ、なんですけど・・・ご存知の方？・・・なるほど。では、一応、さわりだけさくつと説明しますね。ドイツは第二次世界大戦後、4つの国によって占領されました。アメリカ、イギリス、フランス、と、ソ連。

担当Aが画用紙を掲げる。

画用紙には簡単なドイツの絵。支配された地区ごとに色分け。

4分割しただけの、すごくざっくりしたもの。

加藤

ソ連が支配する側を東ドイツ、アメリカ、イギリス、フランスこの三国が支配する側を西ドイツと言います。ソ連というのは、ざっくり言うと今のロシアです。ドイツが戦争によって、2つの国に分けられたのね、とまず頭に入れてください。

そんなに長く説明しませんので、もう少しだけお付き合いください。この前提がわかっていないと、これからの2時間、全く話がわからない、という事態になります。大変でございます。

加藤

・・・さて。戦後の復興が先だという方針のアメリカやイギリスにより、西ドイツは手厚い保護を受け、アメリカなどと同じ資本主義なこともあり、非常に発展していききました。ちなみに、日本も資本主義です。・・・一方、ソ連が支配していた東ドイツは社会主義になりました。しかもソ連、東ドイツから戦争の賠償金として、沢山のお金を巻き上げました。そして西ドイツと東ドイツ、通貨も別々のものが使われるようになりました。東は東ドイツマルク、西は西ドイツマルク。これがさらに両者の差に拍車をかけていきます。結果、元は同じ国なのに、片方の西ドイツはお金持ち、片方の東ドイツは貧乏になりました。そうになると、どうなるか？東ドイツから西ドイツに逃げる人が沢山出てきました。人口流出が止まりません。特に働きざかりの男がどんどんいなくなります。東ドイツ、ピンチ！これ以上、人が出て行かないようにしなくては！

担当 A 画用紙めくる。鉄線ぐるぐるの図。家族の悲しい顔。

加藤

東ドイツと西ドイツの国境に、ある日、突然、鉄線が張りめぐらされ、みるみるうちに壁が作られました。・・・それまでは、ここから西ドイツ、東ドイツと分けられていても行き来できていたのに。・・・急だったので家族や恋人と別れ別れになった人も多かったようです。子供が家でお留守番をしていて、親が西ドイツに働きに行行って、そのまま一緒に住めなくなったり。

加藤、水を飲む。

加藤

福岡で例えると、親が博多や天神など街に働きに行ってる間に、天神の外に壁ができて帰れなくなったようなものです。お家が福岡にあるとします。子供がいるので帰りたい。でも一度家に帰ってしまうと二度と天神に行けません。壁を超えようとすると殺されます。しかし、家のあたりには、

加藤

物も自分が就きたい仕事もありません。給料も安い！・・・結果、両親、もしくはお父さんだけ天神に残って仕送りをする。・・・そういったようなことが、突然、起きました。そこから約30年、その状態が続きました。その30年の間に両者は、どんどん違う国になっていきました。都会と田舎、自由と束縛・・・この閉鎖感、自由のなさ、については、後で触れます。あ、あくまで例えですよ、福間の方。福間よく行きますが、海も魚も最高です！噛みごたえあるのにとろける刺身！・・・では今からこの本の中の、双子の兄弟の話に・・・。

担当Aがジャンピングギミでつつこんでくる。(実際跳ぶか何かする)

担当A

加藤さん、一応、皆様に社会主義の説明も、お願いします。日本とどう違うか、よくわからないので。

加藤

あ、そうですね。・・・。社会主義というのは、身分の差も貧富の差もない、平等な社会を目指すものです。全員で働いて、全員で平等に分配をする。東ドイツでは、医者も工場に勤める人も、農業をする人も、男と女も、給料も立場も差がありませんでした。戦争と西への流出で男が少なかったので、女性も全員、どこかに所属して働いておりました。専業主婦というシステムが作れないので、子供達は全員、保育園へ行きました。ちなみに学費はかかりません。大学もかかりません。成績で進学できる人が決められます。・・・では、

担当者A

あ、加藤さん、もうちよつと何か。何か。

担当者A

もうちよつと、生活をイメージしやすいものを。ふわーっとしてるんですよ。具体的な説明が、欲しいです。

加藤

・・・。資本主義と違って、国が、会社を作ります。何をどれくらい生産するか、値段も国が決めます。例えば、パン、鉄道料金、家賃など、生活に必要なものは、かなり安く設定されています。当時給料、日本円で手取りで6万ぐらいで、家賃が三千円ぐらい。

加藤
・・・それだけ聞くと、住みやすそうでしょうか？しかし先程貧乏な国だったとお伝えしたとおり、現実の世界の、需要と供給が合わなくなっていく、物が足りなくなっていくました。はっきり言って、足りないというより、物が無い状態だったそうです。スーパーにほぼ物、なかったそうです。食べ物以外にも・・・。

担当 A
ああ、お子様が、いまいちピンと来てない感じのお顔をさされて
いる・・・！

加藤
心の声が漏れてますよ！・・・今度はなんですか！？

加藤、担当 A のところへ行く。

担当 A
需要と供給が、いまいちピンと来てないのではないのでしょうか。
何か、もつと、わかりやすい例え、あつ、ドラゴンクエ・・・。

加藤
例え、古すぎでしょう！

担当 A
じゃあ、・・・スイッチ！スイッチスイッチ！

加藤、元の位置に戻る。

加藤
某有名ゲームメーカーが出した、これぐらいの大きさのゲーム機、うにやららスイッチ。発売当初なかなか手に入らなかったですよね。どこの電気屋さんでも売ってなくなつて。・・・その商品が欲しい人の数と、実際の商品の数が同じじゃないと、欲しい人全員が、その商品を手に入れることができません。たまたまにならないけど、毎日、どの商品もその状態だと、ちよつと大変でしょ？・・・ちなみに東ドイツ、車を国に予約して、なんと7年後にやっと届く状況だったそうです。7年。まーそんなけ待ったら、すつごく嬉しいとは思いますが。愛でますよ！自慢もしまくるでしょう！・・・でも長すぎませんか？ねえ。
・・・ではこの本に入っていきます。双子の兄弟の話今日はするんですが・・・。

担当A、今度は小さくつつこむ。2人で少し打ち合わせ。

加藤

双子というのは、初見の方わかりづらいのではないかと、とシヨッピングモールの担当の方から指摘をいただきました。ですので！これから双子の兄弟が出てくるんですが、わかりやすくするために！見た目も年齢も全然違う人が、双子の兄弟として出てきます！自分でも何を言っているんだという感じですが。
・・・どっちが兄で、どっちが弟か、わかりやすいほうがいいだろうと。

担当A、深くうなづく。

加藤

では長くなりましたが、ドイツがかつて2つの国に分かれていた、東ドイツは社会主義、平等で競争はないけど、物もなかった、これから出てくる兄弟は、全く似ていないけど本当は双子！この3点を頭に入れておいてください。では。

暗転

下手 フィリップ達のアジト

テーブルにオラフ、エリック、ラルフが座っている。

ラルフ

つまりさ、この月に車が欲しいなら、これじゃ足りないんだよ。オラフ。

オラフ

足りないって言われてもさ。これで精一杯だよ。これ以上、

ラルフ

ほんとに？まだ、あるんじゃないの？

オラフ

ないよ。
ご褒美でもらったやつがあるだろ。さっさと出せ。あんない

オラフ

い酒、お前の店で売ることなんて、まずないだろ。
・・・なんのこと？

エリック

あのな、オラフ。お前、俺達がどれだけ手間暇かけて車調達するか、わかってんのか？こっちは命懸けなんだ、国にバレたら、終わりだ。それを親切に、あらゆるルートを通して確保する、て言ってるんだぜ。・・・出せないっていうならいいぜ、俺達は手を引くから。

オラフ

待ってくれよ、エリック！

ラルフ

・・・車、国に申請して何年経ったの？オラフ。

オラフ

・・・。

ラルフ

車はさすがの、君が媚を売ってるえらい人も手配できないんだろ？っていうか賄賂、いつも幾ら渡してるのさ。

オラフ

わ、渡してないよ、そんなの。

エリック

じゃあ、人でも渡したのか？

オラフ

・・・。

エリック

俺達はいいぜ、別に。お前が車手に入れるのに何年経とうが、何の支障もないしな。もう、帰っていいぜ。話は終わりだ。

オラフ

そんな、・・・兄弟して脅すのやめてくれよ。あれは、本当に滅多に手に入らない酒なんだ。酒屋にとって、宝物のような酒なんだよ。頼むよ・・・。

エリックとラルフ、顔を見合わせる。

ラルフ

じゃあさ・・・他のものでもいいよ。いろいろ珍しい物、もらってるんでしょ？

フィリップとルカ、ローランドが部屋に入ってくる。

ルカ

大変！ねえ、ちよつとテレビ！テレビつけて！

ラルフ

いや、今？商談中・・・。

フィリップ

いいからつける！

全員

TVを食い入るように見ている。

エリック ……これ、どういうことだ？
ローランド 俺も、理解が追いつかない。 ……でも、つまり ……

上手前 加藤 サスが当たる
下手 全員固まったまま。

加藤 さて。東ドイツには、先程物が無い、と申しました。すると正規ではないルートで、物を手に入れようとする動きがでてきます。平等な社会と言っても、特権を持っている人はいるわけです。その人に媚びたり、ブラックマーケット、闇市場という正規ではないルートで、必要なものを手にいれるという状況が出てきました。 ……取材させていただいた双子のご兄弟、普段は工場に勤めておられ、副業でブラックマーケットの仕事をしていました。そして何やら、テレビに釘付けになっていますね。 ……1989年11月9日。ベルリンの壁崩壊です。きっかけはTVでの「西ドイツに、簡単に旅行に行けるようになります」という、東ドイツの政府の発表でした。それまで特別に認められない限り、東ドイツの人は西ドイツへは行けませんでした。沢山の人が、西ドイツに逃げようとして国境警備隊に殺されてきました。 ……そこまでして何故人々は、西ドイツに行こうとしていたのか。家族に会いたい、それもそうですが、理由の一つは、「自由」でした。

下手 明かり消える。

加藤 東ドイツは社会主義を維持するために、国民を監視、弾圧するようになっていきました。監視するためにシュタージという名の、スパイ機能と警備を兼ね備えた組織まで作られたのです。そして国民の中には、そのシュタージに協力する者も出てきました。ある者は生活の恩恵を受けるために。ある者は自分の理想のために。 ……シュタージとその協力者の数は、どんどん膨れ上がって行きました。

加藤

協力者何するかといいますが、例えば友達とご飯を食べている時に、社会主義の批判や西ドイツのことを褒めたとします。ただちに協力者によって密告され、すぐにシュタージが現れて、収容所に投獄されたり、裸にさせられて身体検査されたり、あらゆる罰を受けました。つまり、自分の隣に敵がいる。それが誰かわからない。・・・それは30年の間に、友達と会話する内容すらも、気を付けないといけないような国にしていたのです。息苦しいですね。

加藤、水を飲む。

加藤

・・・ですが、1989年の東ドイツでは、各地で50万人規模のデモが起こる程、もはや国民を止められないところまできていました。自由への渴望。・・・話を戻します。1989年11月9日。「西ドイツに、簡単に旅行に行けるようになります」という発表に対して、記者が「それはいつからか」と聞きました。東ドイツの広報担当は答えました。「今すぐ、ただちに」・・・テレビを見ていた沢山の人が、ベルリンにある、東ドイツと西ドイツの間の検問所に押し寄せました。そして押し寄せた人の手によって、とうとう検問所の扉が開き、その周りを囲んでいた、ベルリンの壁が壊されたのです。

加藤、手を広げるなどの動きをする。

加藤

・・・ここ日本でも、大々的に報道されていましたね。ブルドーザーが壁に突撃してたでしょう？私はまだ小学生でしたが、TVに映し出された熱狂を、今でも覚えています。沢山の人がベルリンの壁の上に乗って、叫んで歌っていました。泣いている人も沢山いました。今まで行くことのできなかつた自由の国、西ドイツに今俺達はいるんだ、これからは自由だ、もう何を言ってもいいんだ！・・・子供にも、何か大きなものから解放されたことが伝わってきたものです。

加藤 本を開く。

加藤

さて、本の中に戻りましょう。ベルリンの壁が崩壊して、西と東の行き来は自由になりました。それから、生まれて初めて選挙が行われ、ドイツは統一されることになりました。それから急ピッチで東ドイツは西ドイツの制度を取り入れていくことになり、約1年後、とうとうドイツは1つの国になりました。・・・これだけ違う国がたった1年で。今からお届けするのは、ベルリン壁崩壊からドイツ統一までの期間になります。統一の準備期間の1年ですね。東ドイツの政府が作った企業が倒産し、東ドイツの通貨がなくなった頃になります。スーパーに並び始めた、西の種類豊富な大量の商品、そして姿を消していく東の商品。・・・物資を闇市場で確保する仕事をしていた、あの兄弟は果たしてどうなったのでしょうか？

二場

下手 明かり消える

上手 明かりつく

フィリップ達のアジト

テーブルを囲んでオラフとラルフ。

ラルフ いらない？

オラフ うん。

ラルフ 何言ってるの？もうエリックが車、手配してるんだよ？

オラフ だってもういらぬもん。あんなダサイ車。

ラルフ はあ！？

オラフ トラバントなんて東にしかない車、もう用はないよ。だって

西の広場にかっこいい中古車、いっぱい売ってあったもん。

ラルフ ……あのさ、オラフ……てめえ下手にでてりゃ……。

ラルフ、オラフを締め上げようとするが、ふいに咳き込み出す。
オラフ、その隙に上手に走る。

ラルフ オラフ！

オラフ もう、ラルフ達に頼まなくても、なんでも西で買えるもんね
ー。

ラルフ 待て、コラ！

オラフ、出ていく。

ラルフ、咳き込みながら水を飲む。ソファに横になる。

ラルフ、呼吸を整える。

ラルフ ……くそつ。

ラルフ、薬を探す。薬袋を見つける。が、入ってない。

ラルフ 切れてる……。どうしよう……。なんで切れてんだ！

今日……日曜日……日曜日か、最悪だ……。病院も薬
屋も開いてない……。

ラルフ、とりあえずそこらへんにあるものを首に巻きつける。

ルカ、上手より入ってくる。

ルカ ラルフ！？ちよ、ちよっと大丈夫？

ラルフ ああ、ルカ、良かった帰ってきてくれて……。怖かった！。

ルカ なんか飲む？飲んだ？

ラルフ 飲んだ、その水。

ルカ ……そうか、今日曇りだもんね……。

ラルフ ん……。

ラルフ、ソファに横になる。

ルカ 薬は？飲んだ？

ラルフ 切れてた・・・。

ルカ ええー。

ルカもとりあえず、そこらあたりにあるものをラルフにさせる。

ルカ 息苦しい？少しは首のあたり温まった？

ラルフ うーんまだ・・・空気が薄い・・・。気圧が襲ってくる。

ルカ その表現よくわからない。

ラルフ ー、空気に体が圧縮される感じ？上からギューツて。

ルカ ごめん、わかんない。・・・ラルフ、喘息って大変だね。

ラルフ ・・・・ルカ・・・俺、そのうち地球に殺される・・・。

ルカ ・・・・んー。エリック、そろそろ戻ってくるんじゃない？

ラルフ ついでにベルリンにも寄るって行ってたからなー・・・。

ルカ あー、薬・・・なんで気づかなかつたんだろ・・・。

ルカ カミラ先生持ってないかな？先生だったら家にも少し持ってそうだけど。

ラルフ ・・・・！

ルカ もし薬がなくても、カミラ先生だったら、なんとかかしてくれるんじゃない？ほら、前、庭のハーブで何か作ってくれたじゃん？

ラルフ ・・・・そうか。

ルカ 代わりに行ってこようか・・・？

ラルフ うーん・・・いいや、自分で行く。俺、カミラ先生のところ寄って、そのまま帰るわ。皆によろしく。・・・あ。オラフ、車、自分

分まで西で買うってよ。

ルカ ・・・・マジか・・・。そっちも似たようなもんか。

私達の商売も、もう潮時かなー。

ラルフ ・・・・かもね。

フィリップが上手より入ってくる

ファイリップ あの、ごうつくばりがあああああ！！
ルカ おかえり、ファイリップ。今度はなんて？何ふっかけられたの？

ファイリップ 首にいろんなものを巻きつけているラルフに気がつく。

ファイリップ ……そうか、今日曇りか。つてことは……明日あたり雨だな。

ラルフ 人を天気予報に使わないでくれる？ファイリップ。……まあ可能性は高いけど。

ファイリップ 雨の前日の曇りの日と、雨の日の後の晴れの日、だろ。

お前が具合悪くなるの。

ラルフ まあ、そんな感じかな。それより、そっちはどうだったの？
ファイリップ ……。

ルカ ファイリップ、そのおっちゃんだけじゃないよ、渋ってんの。
ラルフ こっちもダメっぽい。

ファイリップ どの件だ。

ラルフ オラフだよ。正直、この状況じゃ厳しいよ。手数料で残せる分だけ残すしかないね。

ファイリップ ……そうか。

ラルフ 俺もうキツイから帰るわ。兄貴とローランドによろしく。

ファイリップ ああ。

ちょうどローランドが入ってくる。大きな麻袋持っている。

ローランド おお、ラルフ。ん？お前どこ行くの？

ラルフ 帰って寝るわ。喘息出てるから。兄貴によろしく。

ローランド ……そうか、今日曇りか。つてことは。

ラルフ 明日は傘がいるかもね。じゃ……ルカ、寄ること兄貴には言わないでね。薬切らしたなんてバレたら、説教しだしてめんどくさいから。

ルカ ……だね。わかった。

ローランド ん？

ルカ なんでもない。

フィリップ その袋なんだ？

ローランド 例のおっさんの換金の件だよ。そっちは？今日話つけない行ったんだろ？

ルカ 察してよ。ローランド。

ローランド なんだ？フィリップもルカもお手上げか？俺はなんとかのませたけどな。

フィリップ ……ほお。幾らのませたんだ。

ローランド 20%。手数料分もきっちり払ってもらったさ。

ローランド、麻袋をテーブルに、ドンっと置く。

フィリップ ……ま、上々だな。この状況では。

ルカ さっすが大学出！やるじゃん、ローランド！

ローランド まあな。

フィリップ といっても奴のこの金は、賄賂用に、プールしてた分だろ？

ローランド そ。せっかくのへそくりが、このままだと本当に紙切れになりかねないんだよ。俺達が、代わりに換金してあげない限り。

ルカ だってまさかいきなり、「ドイツ統一により東はなくなり

ますので、このお金も使えなくなります。速やかに二週間以内に西のお金に交換してください」ってなことになるなんて、思わないよねえ。

ローランド 必死にコツコツ貯めてたつてのにな（笑）

フィリップ じゃあ、これを手分けして、両替しに行くか。確かにあいつが銀行でこの量両替していたら、目立つだろうな。すぐ噂になるだろう。

ルカ 今のところ、他にやることないしね。

3人とも麻袋の中を覗き込んでいる。

暗転

カミラの家

ラルフ カミラ先生、いきなりごめんなさい。

カミラ いいのよ、ラルフ。でもダメよ、薬切らしちゃ。特に今の時期は。

ラルフ はい。

カミラ とりあえずこのハーブをあげるから、ティーにして。明日また病院に……。

いきなり男達が入ってくる。

ラルフ え？

カミラ 貴方達……。

カミラ、ハーブを紙に包むとラルフに持たせる。

カミラ 帰りなさい。

ラルフ いや、でも……。

カミラ いいから。

ラルフ、男達の脇を通り抜けようとするが腕を捕まえられ、戻される。

カミラ ラルフ！

シユタージB カミラ先生、今先生の病棟に行ってきたんですがね。

カミラ 今日は、病院は休みよ。

シユタージB サンプルの数が合わないんですよ、カミラ先生。

カミラ 何のこと？

シユタージA そうですか。それなら……家を捜索させてもらいます。

男達、家の中を手当たり次第ひつかきまわし始める。

ラルフ　　ちよつと・・・！
カミラ　　ダメよ、ラルフ！手を出さないで。
ラルフ　　いや、でも・・・この人達・・・。まさか・・・。
シュタージA　どこだ？

シュタージA、カミラに掴みかかる。
とっさにラルフ、カミラをかばう。

男達らラルフ、カミラ（アクション）

カミラ、ラルフ　気絶させられる。

シュタージB、紙を取り出して確認する。

シュタージA、B　それぞれカミラとラルフを抱える。

シュタージB　ここは声が漏れる。ひとまず先にこいつらを運ぶ。
お前達は、捜索を続ける。あまり音は立てるなよ。
・・・誰にも知られるな。

シュタージA、B　上手にはける。

暗転

フィリップ達のアジト

テーブルの周りにフィリップ、ルカ、ローランドが座っている。
明かりがつく。

ローランド　遅いな、エリック。

ルカ　話つけに行っただ後、ベルリンによってくるらしいよ。

ローランド　何しに？

ルカ　さあ。何か欲しいものでもあるんじゃないの？

フィリップ　女でもできたか！？

ルカ エリックにー？

ローランド 賭けるか？

ルカ 絶対いないに、5マルク。

フリリップ わかんないぞ。いるに3マルク。

ローランド わざわざベルリンに寄るくらいだろ？いるに、10マルク。

エリック 上手より入ってくる。

エリック 冗談じゃないぜ！マジで。

ルカ エリック、おかえり。

エリック ルカ、ただいま。

フリリップ どうだったんだ、ベルリンは。

エリック ああ。皆何もせずに急に金持ちになったって、浮かれてる

よ！なんであんなレートで、西マルクと交換するんだよ！

ローランド ああ、なるほど。ベルリンは買い物客でいっぱいだったんだな。

ローランド まあ、今まで俺達東の10マルクと、西の1マルク、ぐらいで交換してたのに、まるで逆だもんな。そりゃ、西マルクに交換しただけで金増えるよな。経済格差も考えず、無茶なレートにしてくれたもんだ・・・。選挙で人気を得るためなら、後のことなんてどうでも良かったんだらうよ。あの西の首相は。で、どうだったんだ？取引は。

フリリップ だから！・・・わかるだろ！？フリリップ！金が勝手に西マルクへの交換で増える上に、もう西でどんなものでも買えるんだぜ？取引もくそも、俺達が代わりに調達するものなんて何もないだろ！・・・西の奴も、東の人間がどんどん買い物にくるから、・・・広場で中古車フェアやってるんだぜ。ダーって並んでる車見たら、ちよつと泣けてきたよ。

ルカ ・・・・ラルフから伝言。オラフが西で車買うから、この間のキャンセルしたいって。今日言いに来たみたい。

エリック ・・・・あいつ。このタイミングで言いにくるってことは、換金の影響もあるだろうな・・・。ん？ラルフは？

ルカ 家に帰って寝るって。

エリック そうか……。昨日ぐらいからちよつと具合悪かったんだよな。

ローランド お前、ベルリンに何しに行ったんだ？

エリック ああ。ほれ。

エリック、袋からバナナを取り出してひと房置く。

フィリップ バナナ！

ローランド バナナ！（同時）

ルカ バナナだー！！

フィリップ やっぱいいな、バナナは！

ローランド けど、なんでもない日にこう、ポンって出てくるとな……。
ルカ 凄いやねえ……。慣れないー。

フィリップ 前は年二回くらいしか、食べられなかったのにな！

ルカ ほんと。クリスマスのお王様だったのに。

ローランド あんなに何時間も並ばないと、買えなかったのにな……。。

フィリップ、ローランド、ルカ、バナナを崇めている。

エリック さてと。じゃあ、俺帰るわ。

フィリップ 帰る？

エリック いや、だってラルフ帰って寝てるんだろ？

フィリップ お前、ほんとに何しにベルリンに行ったんだ？

エリック 中古車がどんな状況が見に行ったのと、そのスーパーで売り切れてたからさ。バナナ。食欲なくてもバナナだったら食べられるだろ？栄養も高いし。喜ぶだろうし。昨日からどうもラルフの具合が……。。

ローランド そっちかよ！弟かよ！お前さーちよつとは、弟離れしろよ！

お前達もう22だろ！なんだよ！。

むつとききたエリックがバナナを取り上げようとする。

ローランド いや、これはこれで俺達も嬉しいけど。

ルカ うんうん。

フィリップ まあ、バナナのためなら、ベルリンに行くのも仕方ないな。

3人とも袋に入っているバナナがちよつと気になる。

エリック なんだよ！これは俺達だけで食べるんじゃないやねえよ！ついでにカミラ先生のところにも持っていくんだよ。長い間、世話になつてきたからな。

フィリップ 別に袋を見たわけじゃないぞ。たまたま目に入ったんだ！

ルカ そ、そうだよ！

ローランド まあ。

ルカ ねえ。

フィリップ ……ま、先生によろしくな。寂しくなるな、先生いなくなるよ。…先生も、西に越すんだって？

ルカ そうなの？

エリック 西の病院に呼ばれたんだと。

フィリップ いつ発たれるんだ。先生のいるうちに、俺も挨拶に行かないとな。

エリック 2週間後くらいって。

フィリップ そうか…。

ルカ ま、待つて！今からカミラ先生のところに行くの？

エリック そりゃ、帰り道なんだから、寄るよ。バナナ生ものだし。綺麗なうちにあげたいし。

ルカ そつか、そうだよね…。

エリック、薬の袋の中を見る。

エリック ……。

ルカ ど、どうしたの？エリック。

エリック いや、これこの間見た時、すでに3錠しかなかったんだよな
1。

フィリップ ラルフの薬か？

エリック ああ。

フィリップ お前が管理してるんじゃないのか？

エリック それが、前入院した時、子供もいたらしくてさ。違う病棟だけど。そしたら急に、病院ついてくるなって言い出してさ。自分でいくし、いちいち薬飲んだかも聞くな。もう大人だし管理も自分でするって。でもあいつ、結構飲み忘れるんだよ。

ローランド いやいやもう、お前が過保護すぎるんだって。大丈夫だよ、はー……。俺はお前の方が心配だよ。

フィリップ じゃあ、とりあえず、銀行に行くか。

フィリップ、小分けした袋を持つ。ルカにも手渡す。

ルカ うん……。

フィリップとルカ、上手にはけようとする。

ルカ ローランドは？

ローランド 俺、ちよつと後でいいや。

ルカ 自分が持ってきた仕事でしょ。

ローランド いいからいいから。

フィリップとルカ、上手にはける。

ローランド 俺も一緒に行く。カミラ先生に聞きたいことがあるんだよ。

エリック 別にいいけど……。

ローランド 明日でも大丈夫だからさ、これは。西マルクへの換金だから。

エリック ああ……。すごい並んでるな、銀行。

ローランド 交換期間が無茶だからなー……。しかし、カミラ先生もとうとう西に行くか。給料が全然違うらしいもんな。……皆、ここをどんどん出て行くな。

エリック そうだな。

ローランド お前はとうするんだ。

エリック 俺？

ローランド ここは工場のせいで空気が汚れてる。ラルフのためには離れた方が。

エリック そうはいつでも。

ローランド お前な。工場だっていつまで勤められるか、わからないぞ。

エリック え？

ローランド 西に会社ごと、潰されるかもしれないってこと！

エリック うちの工場は、西の会社と合併したから、大丈夫だよ。

ローランド あのな。そんなのんきな状況じゃないんだぞ！お前先月から東の会社がどんどん潰されていってるの、知ってるだろ。今までは会社も全部国のもんだったけど、西はさ、資本主義はそうじゃないからって。この一ヶ月で、どんだけ失業者が出たか知ってるか？

エリック ……いや、わかんないけど。

ローランド 俺さ、役所に勤めてるからさ……わかるんだよ。……あんなレートでマルクを交換してたら、そのうちここも西の物価につられる。ものは変わらないのに、値段だけ、どんどん上がっていくんだ！安く雇えていた人間の給料だって跳ね上がる。

……ヘタすりゃ、これから何百万って増えるぞ、失業者が！

エリック ……いや、でも……。

ローランド 俺さ、西に転職する。ここにいたらいずれ……。フィリップにはまだ言うなよ。ルカにも。あんなんでも、ルカのおじさんだからな。

エリック ……？

ローランド エリック。お前も急がないと間に合わないぞ。俺は大学を出てるし、まだ若い。フィリップは、技術はあるが……年齢的には厳しいかもしれない。

エリック ……厳しいって？厳しいってなんだよ。

ローランド ……お前さ。失業なんて考えたことあったか？俺達は、生まれた頃から皆一緒だった。一緒に保育園に行って、学校にいったって、皆どこかに勤めることができた。

ローランド それがなくなるなんて！俺とお前が同じ会社受けてさ、片方だけ受かる、なんてことがさ、子供の頃から一緒だった奴を、蹴落とさないといけないなんてことがさ。俺達そんなこと、習ったことなかっただろ！……俺達は統一されたんじゃない。西に……吸収されたんだ……！

エリック ……ローランド。……フィリップを見捨てるのか？

ローランド ……俺にはどうすることもできない。

エリック いや、お前、役所に勤めてるんだったら、どっか、人がいないところかさ……。

ローランド ……。

エリック なんだよ！助け合ってきたろ、俺達……！

ローランド だから！もう、そういう世界じゃなくなるんだよ！

エリック なんだよ、それ。一人だけ抜けがけして平気なのか？

ローランド 平気なわけないだろ！

エリック ……。

ローランド ……。

ルカ、上手より入ってくる。

ルカ やっぱ私も、エリックと一緒にカミラ先生に挨拶に行く！

ローランド 両替は？

ルカ 明日でもいいじゃん。

ローランド ……。

ルカ なによ。私がいたら何か問題でもあんの？

ローランド 男同士の話が、あるんだよ。

ルカ はあ！？

エリック ……今度でいいんじゃないの？

ローランド よくねえよ。カミラ先生に聞きたいことあるつつたろ。

ルカ カミラ先生に？ローランドが？……何聞くの？

ローランド (溜息) ちよつとばかり、西の話だよ。それだけ。
……しょうがないな。……とりあえず行くか。

三場

カミラの家

明かりがつく。中に誰もいない。物が散乱している。

上手よりエリック、ルカ、ローランドが入ってくる。

ルカ カミラ先生、こんにち……。え？

エリック ……カミラ先生？

ローランド どこですか、先生！……おい！

エリック とりあえず、探そう。

三人、あらゆるところを探す。

ローランド まるでシュタージに連れ去れさられたみたいだな。

ルカ ……同じ団地に住んでいた子の時も、こんな感じじゃなか

った？家族で西に逃げようとした家の子。

ローランド ……逆か？逃げた？

エリック いや、それならなんで、俺に引越すことを教えるんだよ。

ローランド そういやお前、引越すことっていつ聞いたんだ？

エリック 今朝。

ローランド 今朝？

エリック ああ。そのパンを買いに朝とおりがかったら、ちょうどカ

ミラ先生が植木に水遣りしてたんだよ。

ローランド そうか……。

ルカ でも連れ去るって……。どこに？

ローランド ……どつちだろうな敵は。もしカミラ先生がシュタージの

協力者で、誰かがそれに気づいていたら？

ルカ カミラ先生は、人を密告するような人じゃないよ。何言ってるの。

ローランド 可能性の話をしてるんだ、今は。

エリック 町の人が先生に、こんな真似するか？カミラ先生相手になら、もっと、丁重にやるだろ。

ローランド 協力者って知ったらわかんないぞ。シュタージに家族殺された奴もいるんだからな。

ルカ 町の人なら、わざわざ連れ去らなくてもよくない？ここでやればいいじゃん。連れていくにしても、ここまで散らかすかなあ。

エリック じゃあ、シュタージ・・・？でも奴らだってもうこんな目立つこと。

ローランド 奴らの仕業だってバレればな。壁がなくなっても、実際まだシュタージはなくなったわけじゃない・・・もしカミラ先生が、シュタージにとって都合の悪い何かを、握っていたとしたら・・・？

エリック 表に出る前に、今のうちに握り潰す・・・！

ローランド シュタージ本部か。

エリック もしくは・・・。とにかく俺達だけじゃ無理だ。

ルカ どうしよう・・・！ラルフ・・・！

外から物音

三人とつきにしゃがむ。隠れる。

男達が入ってくる。

男達（5人くらい）
エリック・ローランド・ルカ（アクション）

最終的に、男達逃げる。

ローランド 思いっきり、やりやがって。

ルカ 大丈夫？二人とも。

エリック ああ。

ローランド エリック・・・。
エリック ああ。アイツら、制服は着てないけど・・・。
ルカ てか、あの動きでもう決まりでしょ。
エリック ・・・・何しにきたんだ、アイツら。
ローランド とりあえず、早くずらからないと。
ルカ あ、ねえ、あのさ。

車の音

ローランド くそ、もう次がきたか。

仕方なく、三人構える。
上手よりフィリップが入ってくる。
三人襲いかかる。

羽交い絞めにしたところでフィリップに気づく。

フィリップ 何だお前ら！？
エリック フィリップ！？（三人同時）
ローランド フィリップ！？
ルカ フィリップ！？

フィリップを解放する。

フィリップ どうしたんだお前ら！怪我してるじゃないか！
ルカ びつくりした。・・・フィリップも挨拶にきたの？
フィリップ ああ。なんだこれ。・・・どうしたんだ？
エリック ・・・・シュタージだよ。
フィリップ ・・・・何だって？
エリック シュタージがやっていったんだ。
フィリップ 何言ってるんだ。
エリック 何言ってるんだ、じゃないだろ！
フィリップ 先生は！

ルカ 多分連れ去られたんだと思う。見てはないけど。

ローランド 俺達がきたときは、もうこんな状態で荒らされてて。そして

らいきなり男たちが襲ってきて。今回は、勝てたけど。

ファイリップ そうか……。ひどいな……。なんてこった……。

エリック なあ、ファイリップ。……。カミラ先生が引越すこと、いつ、

どこで知ったんだ？

ファイリップ お前が言ってたじゃないか。

エリック ……？俺が言う前に知ってたよな？

ファイリップ ……なんだ、いきなり。

エリック 俺が先生の引越しを知ったのは、今朝だ。でも別に荷造りしてる感じはなかった。

ファイリップ 何が言いたい？

エリック ファイリップ、何か知っているなら……。事は一刻を争う。

ファイリップ、机か何かの引き出しにしまっていた無線を探す。
床を探して踏み潰されているのを見つける。

ファイリップ 壊されてる……。くそつ。

ルカ ファイリップ？え？何して……。

ファイリップ ……でかい金になるかもしれないなかったのに。

ルカ 盗聴してたの？カミラ先生を？

エリック ……ゆするつもりだったのか？先生を？

ファイリップ ……わかってないな。カミラ先生じゃない。もっと、でか

いところだ。

エリック ……どうしたっていうんだ？ファイリップ。

ファイリップ ……。

エリック 俺達がやってきたのは、あくまでも、生活の足しのためだつ

たら！何をしようとしてるんだ！

ファイリップ 生活の足しってのはな！生活があるからできるんだよ！お前、

今の、西からきた工場長が何したか知ってるか！あいつは俺達
の工場を潰すつもりだよ！最初っから潰すつもりで合併しやが
ったんだ！

エリック　え？

ローランド　・・・。

ルカ　じゃあ、どうなるの？私達・・・。

ファイリップ　だから・・・。

ローランド　ファイリップ、気持ちはわかるが。

エリック　だったら何だよ！・・・一体、何を相手にしようとしてるんだ？

ファイリップ　・・・政府だよ。

エリック　・・・政府だって！？・・・いかれてる・・・！散々上の人

間は、俺達東の人間を、監視して壊してきたじゃない

か・・・！ベルリンの壁が壊れた今、なんだってそんな危ない

橋を渡るんだ！

ファイリップ　壁が壊れたからだよ！・・・何がドイツ統一だ。奪われるば

かりじゃないか。今住んでる家だって、亡命した奴が「土地を

返せ」と言ってきたら、俺達が出て行かなきゃならないそうじ

やないか！勝手に、ここを捨てて、出ていったくせに！

エリック　・・・冗談じゃない・・・ついていけない！　頭を冷やせ、

ファイリップ！

冷やすのは、お前の方だ。

エリック　・・・。

ファイリップ　・・・。

エリック　今まで先生の身に、こんなことおきなかった。あんたが、何

か嗅ぎ回ったから、先生が巻き込まれたんだ！

ファイリップ　逃げてるかもしれないじゃないか！

エリック　ファイリップ！

ファイリップ　・・・。

ルカ　ファイリップ。・・・私達、顔を見られた。奴らに。

エリック　シュタージなら、俺達を突き止めることなんか、わけないぞ。

どうするんだ、ファイリップ！

ファイリップ　・・・。

ローランド　よし、みんな、続きは後だ！ここにいたら危ない。車で来て

るんだよな？

フリリップ ああ。

ローランド じゅあ、念の為に迂回して帰ろう。今ここで話してもなんにもならないだろ。エリック！

ルカ 待って！ラルフが・・・！

エリック ・・・・ラルフ・・・？

ルカ ラルフも・・・。

ローランド ・・・・ん？どうしたんだルカ。落ち着いて話せ。どうした？ラルフも連れて行かれたかも。喘息の薬が切れてて、家に帰る前にカミラ先生のところへ寄るって言ってたから・・・。

フリリップ なんだって？

エリック お前、なんでそれを先に言わないんだ！

ルカ ごめん。

ローランド ・・・・えーっと。再度整理しよう。・・・いや、とりあえずここを離れてだな・・・。エリック、お前はとりあえず、家に帰ってだな、ラルフがいるかを・・・。車は1台だから。

エリック、床に落ちているピンバッジを見つける。

エリック ・・・・！

ルカ ・・・・これ・・・！

フリリップ どうしたんだ？

エリック ラルフのだ。親父が昔、ラルフにあげたピンバッジだ。いつも持ち歩いてる・・・。

フリリップ 間違いないのか。ピンバッジなんて。

エリック ラルフは親父が大好きだったから、子供の頃から持ち歩いているんだ。裏に俺とラルフのイニシャルが書いてある。マジックで。・・・子供の字だろ？

エリック、立ち上がって駆け出して上手にはける。

ローランド エリック！

車の音。

全員上手にはける。

暗転。

暗転幕が閉まる。

四場

幕前

シュタージ本部の前。

人が大勢いる音。

フィリップとルカとローランドが入ってくる。

ルカ 何、この人ばかり！

フィリップ 何が起きてるんだ……！

上手よりオラフが歩いてくる。

フィリップ オラフ！

オラフ フィリップ！

フィリップ オラフ、こりゃあ、一体何が起きてるんだ！

オラフ なんだ、知らないでできたのか。町の皆で、シュタージの本部を占拠してるんだよ。

フィリップ 何だって！？

オラフ こうでもしなきゃ、いつまでたってもシュタージがなくならないだろ？ベルリンの壁がなくなっても、何故か国はシュタージをなくしてくれない。

ローランド ……今ドイツ統一に向けて作っている法律には、シュタージに関する項目が入ってない。このままじゃ、シュタージはそのまま残る。適当に名前ぐらいは変えるかもしれないが。

オラフ 俺達、シユタージから解放されたくて、ドイツ統一に賛成したのに。

ルカ ……そうだね。

オラフ とりあえず交代で見張りをしなきゃいけないから、町で来てない奴を、今から呼びに行くんだよ。よかったよ、ちょうどあんたがきてくれて。手伝ってくれるだろ？

フィリップ あ、ああ……。

オラフ じゃあな。

オラフ、下手に去る。

ルカ とにかく中に入ろう。カミラ先生もラルフも、これだったら、きっと無事だよ！

ルカ、フィリップ、ローランド上手に行く。
暗転幕上がる。

五場

ゴミ処理場の一室

何かを燃やしているような、ゴオーっという音。
転がされているラルフとカミラ。

カミラ ラルフ。ラルフ。

ラルフ、目を開ける。

ラルフ ここは……？

カミラ わからないわ。

ラルフ なんだろう、この音。……なんだっけ？どっかで……。

ラルフ、咳き込む。

カミラ、ラルフの upper body を支えて背中をさする。

カミラ、服の中から薬（吸入器）を取り出す。

カミラ ラルフ、吸って。

ラルフ、吸入器を口にあてて吸う。

カミラ 大きく、呼吸して。そう。

ラルフ ……。

カミラ これ、持ってなさい。ただ、強い薬だから、発作の時だけ使いなさい。

ラルフ はい。

カミラ とにかく、貴方だけでも……！

ラルフ あの、カミラ先生。……どうして俺達、捕まえられたんですか？

カミラ ……。

ラルフ あの人間達って？ほら、あの、いきなり襲ってきた人達。

カミラ ……。

ラルフ 先生？

カミラ そうね。なんでかしらね。先生にもわからないわ。

ラルフ ……そう。

カミラ ……ラルフ。夜はちゃんと眠れてる？

ラルフ あー……。寝れる時と寝れない時があって。最近はあまり。

カミラ そう、それはあまりよくないわね。

ラルフ カミラ先生は？先生は眠れますか？

カミラ そうね。寝れたり寝れなかったりね。

ラルフ 実感がわかなくて。ほら俺、小さい頃からカミラ先生に見てもらっていたし。エリックも残念がって、先生が西に行ってしまうこと。俺も正直、寂しいです。先生がいなくなるの。

カミラ もう、壁はないのだから、いつだって会えるわよ、ラルフ。

カミラ もうドイツは、1つになるのだから。

ラルフ ・ ・ ・ うん ・ ・ ・

カミラ ・ ・ ・ ほんと大きくなったわね。先生も歳をとるはずだわ。

ラルフ 先生は変わらないよ。

カミラ ふふ。そんなハズないわ。

ラルフ そう？

カミラ あっという間。あっという間だったわ、ここまでくるのに。

ラルフ、人生はね、びっくりするほど速いけど、のまれちゃだめよ。

何に？

ラルフ 人生という濁流に。ちゃんと自分で舵をとり続けなさい。

カミラ ・ ・ ・ はい。

ラルフ 何があっても負けちゃダメよ。自分と周りに負けたらダメ。

ラルフ はい。 ・ ・ ・ フフツ。

カミラ 笑ったわね。

ラルフ ああ、そうじゃなくて。そういうの、兄貴からしか聞けなかったから。

カミラ エリック。フフ。おかしいわね。あの子も相変わらずね。

ラルフ そう、双子なんだから、同じ年月しか生きていないくせに。

兄貴はずっと ・ ・ ・ なんていうのかな、お父さんになりきれないお父さんって感じ。本とかテレビとかのうんちくを借りてくるっていうか。うまく言えないけど、俺のこと、弟っていうより、息子って思ってるところがあるんだ。自分ではお父さんとお母さんの代わりをしているつもりでいるみたい。一緒に生まれてきたのに、変でしょ？

カミラ ・ ・ ・ そうね。 ・ ・ ・ エリックは昔っからそうね ・ ・ ・

貴方達が子供の頃。ある日、エリックが私の家の前に、ちよこんって座ってたの。どうしたの？って聞いたたら、子供のしつけの本を貸して欲しい、っていうのよ。親になる方法を知りたいって。だからね、私エリックに言ったの。「貴方がラルフの親になる必要はないわ。これからは、貴方の周りの大人全部を、親と違って、頼りなさい」って。12才くらいだった。

ラルフ ……母さんが死んで少しくらいの頃だね。……兄貴は、母さんが工場で事故にあったって聞いても、泣かなかった。泣かずに俺の手をずっと握って、大人の話聞いてた。……俺、……なんで泣かないの？兄貴だからって我慢することないのに、って言ったんだけど、結局兄貴は最後まで泣かなかった。……でもそんなの変だよ。俺達と一緒に生まれてきたんだから。俺は確かに体は弱いけど、なんていうか、もつと。俺だって大丈夫なんだ。なんであんなにいつも、守ろうとするんだろう。

カミラ ……そうね。そうよね、ラルフ。

シュタージの足音。

カミラ ラルフ、その薬をしまいなさい！早く！

ラルフ、吸入器を胸元に入れる。

シュタージA カミラ先生。

カミラ 何故この子まで連れてきたの？この子は何の関係もないのに。

シュタージA 先生、まだ立場をわかってないんですか？

ラルフ、発作を起こして暴れ始める。

カミラ ラルフ！

シュタージA、いきなりラルフが暴れだしたのでびっくりしている。

カミラ 発作よ！この子はぜんそくなの！早く病院に！

シュタージA そうはいかない！

カミラ 何言ってるの！この子に関係ないって、言ってるでしょう！

ラルフ、カミラの手をしっかりと掴んでいる。
シュタージBが入ってくる。

シュタージB どうした？

カミラ 発作よ！早く病院に。この子だけでも！

ラルフ、首を振る。

ラルフ 先生と一緒になきゃ、嫌だ！

カミラ ラルフ！

シュタージB ・ ・ ・ 病院か。連れて行ってもいいが。

シュタージA おい！

シュタージB 先生次第だ。

カミラ ・ ・ ・ ・ ・

シュタージB カミラ先生。貴方が持ち出した、サンプルと資料のありかを。

カミラ ・ ・ ・ そんなもの、ないわ。

シュタージB ほお。

ラルフ ・ ・ ・ 水 ・ ・ ・ !

シュタージA 水か！

シュタージA、下手に走っていく。

シュタージB その少年は確か、貴方の治験者だろう？

カミラ え？

シュタージB 我々の情報ルートは1つだけじゃないんでね。君がいたのは、たまたまだが、都合がいいので連れてきた。君にも協力
願いたいんでね。

ラルフ 俺？

シュタージB そうだ。我々の質問に答えてくれればいい。

ラルフ ・ ・ ・ したら逃がしてくれる？なんのこともかさっぱりわからないけど。

シュタージ B ……発作、治まったようだな。
ラルフ ……ちよつと、びっくりしたから。逆に？
シュタージ B 舐めたガキだ。仮病を使うとは……！

シュタージ B、ラルフを締め上げようとする。
ラルフ、とつさに抵抗する。
水をもったシュタージ A が入ってくる。

シュタージ A・B ぶ ラルフ、時々カメラ（アクション）

ラルフとカメラ、倒される。

シュタージ B 手間かけさせやがって。

バタバタとした足音

シュタージ B 騒がしいな、なんだ？

シュタージ A、下手奥に行く。

シュタージ A なんだ！何があつたんだ！

声 侵入者だ！応援を頼む！

シュタージ A 侵入者？……どうする？

シュタージ B ……こいつらも油断ならぬからな。何人だ？

シュタージ A 侵入者は何人だ！

声 わからない。

シュタージ B ……こつちも立て込んでな。

声 そうか、まわせないか。

シュタージ A こつちは二人しかいないんだ！そつちでなんとかしてくれ！

声 ……そうか、わかった。

エリック、下手奥から入ってくる。

シュタージA あれ、同じ顔が二人……。なんだ？

シュタージA・B VS エリック（アクション）

シュタージA・B 倒される。

エリック、ラルフとカミラの傍に行く。

ラルフ エリック……。

エリック 大丈夫か。

ラルフ ああ……。

エリック カミラ先生も、大丈夫ですか？

カミラ なんとかね。

エリック ラルフ、立てるか。

ラルフ ああ。

エリック、カミラを立たせる。

カミラ どうやってここが？そもそも、ここはどこなの？エリック。

エリック ゴミ処理場です。急いで。

ラルフ ゴミ処理場……。そうか、この音、焼き窯の音だ。

エリック そう。今は稼働してないはずなのに、煙が上がってた。ここなら拷問しても音も漏れない。最悪、人だって燃やせる。

カミラ ……。

ラルフ 噂は本当だったんだね。シュタージが、解体させられる前に世間にバレたらヤバイものを、燃やしてるって。

エリック かもな……。とにかく焼き窯のところにいる奴らが来たらやっかいだ。早く！

エリック、ラルフ、カミラ、下手奥にはける。

下手奥よりシュタージCが入ってくる。

シユタージ C、シユタージ A と B を揺り起こす。
シユタージ A、B、C、下手奥へ走ってはける。
暗転

焼きがまの部屋（先程の部屋と別とわかればよいです）
明かりがつく。

エリック、ラルフ、カミラが入ってくる。

シユタージに追い詰められている。

シユタージ A もう、逃げ場はないぞ。

シユタージ B カミラ先生、貴方がそれを持っていたところでできること

など何もない。今さら我々に背いたところで、俺達は完全に
なくなることはない。

カミラ ……じゃあ、何故貴方達は、こうやって、いろんなものを
破棄しているの？国民はもう、止められないわよ。

シユタージ A ……道連れにしたいんですか？彼らを。

シユタージ B 我々は、この美しい、素朴な国を守るために生きてきた。

貴方には見えないか。民が平等であることの尊さが。このま
ま西に食われることは、我々の敗北だ。悔しいが、敗北は敗
北なりに落とし前をつけなくてはならない。……全てをで
きるだけ無にすること。……最期の警告だ。カミラ先生。
……わかったわ。彼らを自由にするのであれば。

カミラ 先生……？

ラルフ 大丈夫よ。ラルフ、エリック。

カミラ、ラルフとエリックを抱きしめる。

カミラ 彼らを連れて行って頂戴。

シユタージ A ここで見たことを誰かに告げたら……わかっているな。

エリックとラルフ、シユタージに剥がされて無理やり連れて行かれる

カミラ 本当にもう、ここにはないの。全て送ってしまったわ。
シュタージA どこに？どうして！

カミラ 貴方達と同じ東ドイツのためよ。私は自分のしたことを十分に理解しているわ。命を守る使命と、欺瞞に、私も落とし前をつけることにしたのよ。

カミラ、シュタージBに近づくと銃を抜き取り、自分の頭を撃つ。音を聞きつけて、シュタージを振り切ったラルフとエリックが入ってくる。遅れてシュタージも入ってくる。

ラルフ カミラ先生！

エリック ……先生……。お前ら……。

シュタージB ……何故戻ってきた……。何故戻ってきたんだ！

ラルフ ……だって……。

シュタージB これを見られた以上、帰すわけにはいかない。お前達……責任は私が取る。……全て始末しろ。

エリック、ラルフがシュタージ（アクション）

全員倒れる。

少しして、エリックがラルフの元に行く。

ラルフも声は出さないけど、意識はあるそぶり。

大人数が押し寄せてくる足音

エリック、ラルフ、身を寄せ合う。

近づく、大きくなっていく足音

暗転

暗転幕降りる。

加藤入ってくる。

加藤にサス明かり。

・・・国家安全保障省、略してシュタージ。西への逃亡や荷物検査を担当していた国境警備隊、西ドイツや外国へのスパイ活動を行っていた、通称A部隊、・・・様々な専門部隊を持ち、国内外の監視と弾圧をおこなうシュタージは、巨大な組織へと膨れ上がっていました。ドイツ統一への、大きな要が、このシュタージの解体でした。・・・しかし、西ドイツでさえ、このシュタージの解体を積極的に進めようとはしませんでした。なぜなら、西ドイツもシュタージのスパイによって、沢山の情報を握られており、それが国民へと公表されるのを恐れたからです。・・・少し背景を戻します。西ドイツと東ドイツの対立は、そのままアメリカとソ連の対立でもありました。冷戦と呼ばれた時代。アメリカとソ連が、相手の出方によっては核爆弾を落とすかもしれない、相手の動きを探るための情報戦の、最前線が西ドイツと東ドイツでした。同じシュタージを解体するのであれば、そういった国家秘密文書を全て破棄してからにしたい、というのが東ドイツと西ドイツの政府の思惑だったようです。そして秘密裏に、秘密文書の破棄が進められていきます。・・・国民は苛立ち始めます。なぜ、ドイツが統一されるのにシュタージが解体されないのか。そして国民が動き始めます。それが、各地域に置かれた、シュタージ本部への占拠でした。2回による、国民のシュタージ本部の占拠により、とうとうシュタージは解体させられることになり、膨大な秘密文書も、国民が閲覧できるようになりました。それまでに燃やされてしまった物もあるそうですが、・・・なにせよ、シュタージは解体されました。・・・国民の手によって。

加藤、サス明かり消える。

加藤はける。

暗転

六場

墓地

下手に墓石がある

額もしくは腕に綱ガーゼをつけたエリックがいる。

明かりがつく。

墓石の前にエリックが佇んでいる。

手にガーベラを持っている。

墓石を触る。

上手からローランドが入ってくる

ローランド エリック。

エリック ……。

ローランド お前、勝手に病院抜け出すなよ、びっくりするだろ！

エリック ……。

ローランド あ、花を供えにきたのか。言ってくれば、一緒に……。

エリック ……ほら、好きだったろ？

エリック ガーベラを墓に供える。

ローランド ……？ガーベラはお前が好きな……。……エリック。

お前まだ混乱してるんだな。ほら、早く病院に……。

エリック ……なんで……？

エリック、ローランドを見る。

ローランド ……すまない。間に合わなくて。

エリック ……。

ローランド お前の意識が戻るのを待ちたかったんだが……。

エリック　　本当に？この下に？
ローランド　ああ。警察から返ってきたわりには、綺麗だったよ。
エリック　　警察・・・？
ローランド　・・・。

フィリップとルカが上手より入ってくる。

ルカ　　エリック！

エリック、ルカとフィリップを見る。

フィリップ　エリック。
エリック　・・・どうしてだ？どうしてこんなことに？
フィリップ　・・・。
エリック　　答える、フィリップ。
フィリップ　それは・・・。
エリック　　・・・。
フィリップ　・・・。
ルカ　　エリック。もっとエリックが・・・元気になつてからちゃんと説明するから。だからさ、今日は帰ろう。ね？

ルカ、エリックの腕を取るがはじかれる。

エリック　　戻らない。
ルカ　　何言ってるの・・・！
エリック　　ここにいる。傍に。
ルカ　　ここはダメ。また、これるから。エリック。
エリック　　一緒に生まれてきたんだから、死ぬ時も一緒に・・・！

フィリップ、エリックの頬を叩く。

フィリップ　馬鹿なこと言うな！

エリック …… 誰のせいだ？あんたが、カミラ先生を！
ローランド エリック！

ローランドとルカ、フィリップとエリックを止める。

ローランド エリック！撃つたのは、シュタージだ。確かにフィリップは盗聴はしていたが。

エリック シュタージを、政府を、相手にしようとしたのは誰だ？
勝てもしないのに！はじめから勝目なんて何一つなかったのに！シュタージの恐ろしさなんて、嫌というほど知っていたくせに！……それでお前は何をしようとしてたんだ！俺達を巻き込んでまで！

フィリップ ……。

エリック 俺は、戻らない。誰が……お前なんかと……。

ルカ エリック……。

エリック 二度と、俺の前に顔を見せるな……！

フィリップ ……そうか。言っても無駄だな。

ローランド フィリップ……。

フィリップ どっちにしろ、カミラ先生がいなけりゃ、証明のしようがない。

ローランド ……フィリップ。何を知ってたんだ？俺には。

フィリップ ……。

ローランド なんて、相談してくれなかったんだ？せめて、相談ぐらい。

フィリップ 相談したらどうだっていうんだ？安全なところにいるお前に、何がわかる。

ローランド ……少なくとも、こんな事態にはさせなかったよ、フィリップ。仲間として。……ルカ、先にフィリップと家に帰ってくれ。必ず、病院には連れて帰るから。

ルカ ……うん。わかった。……病院には伝えておく。

ローランド ああ。

ルカ、フィリップ 上手にはける。

ローランド エリック・・・。

エリック・・・。

ローランド わかったよ。フィリップとはお別れだ。・・・それでいいな。

エリック、ずっと墓をなでている。

ローランド さすが、双子だな。お前なんで真っ直ぐゴミ処理場に行けたんだ？俺達はつきりシュタージ本部かと。

エリック 煙が上がってた。あのゴミ処理場は、管理している会社が潰れて、停止されているはずなのに。

ローランド なあ、エリック。一緒にベルリンに出ないか。あそこはボンなどに比べたら、都会の中でも家賃が安い。ここは想い出が多すぎるだろ。

エリック 離れたくない。

ローランド じゃあ、お前どうすんだ、これから。お前三ヶ月も意識戻らなかつたんだぞ。その間に、どうだ。・・・ドイツは統一したよ。もう、東ドイツは、ないんだ。・・・お前が働いていた工場も、東側は閉鎖されたよ。・・・エリック、西に出よう。

暗転

加藤 入ってくる

加藤 ドイツが統一されて、何百万人の失業者が出ました。東ドイツというのは完全雇用でしたから、人と競争をしたことない人達がいきなり就職活動というものに放りこまれたのです。男女平等の社会だった人達にとって、西側が男性優位の社会だったことも戸惑いを生みます。保育所待機児童0だった東とは違い、女性の失業率はさらに高くなりました。定時退社が当たり前の、家族の団欒が当たり前の世界から、統一後、一変します。こうして東側の進んだ制度は取り入れられることなく、西側の制度にのまれていきました。

加藤、本を見る。

加藤

さて。ローランドさん、その後ベルリンで就職できたのですが、西ドイツ出身の人と給料が違うことに嫌気がさしたらしく、エリックさんとブラックマーケットで両替商を始めます。ドイツは沢山の国と隣接している上に移民も多いため、他の国の通貨とドイツマルクを両替する仕事は軌道にのります。たまにマネーロンダリングなど危ない仕事もこなしていたそうです。・・・そして、ドイツ統一から約一〇年が経ちました。22歳だったエリックさんも、30代前半になりました。・・・今からお届けするのは両替する仕事をしていたのに、統一通貨ユーロが始まってしまおう、というところになります。・・・ユーロ、ご存知ですよ？EU諸国、ざっくり言うとヨーロッパ圏内は、どこでもユーロという通貨を使うことになりました。物と人との自由な行き来！ヨーロッパ圏内の自国の通貨は廃止され、ユーロという通貨に統一されました。・・・このお話は、今からそのユーロが始まるところです。両替商の仕事していたのに、エリックさん、ローランドさん、またしてもピンチ。あの別れから一〇年後、お二人はどうなっているでしょう？

加藤、はける。

暗転幕が開く。

七場

下手 エリックのアジト

エリックがソファで寝ているが、足だけしか見えない。イレーネとサラがいる。ローランドは何か作業をしている。

イレーネ ああ、ほら、また！

サラ こんなところで寝てたら、風邪ひきますよー！

イレーネ もう、起きてください！

サラ エリックさん！

イレーネ エリックさん！

ローランドも、ソファの近くにやってくる。

ローランド おい、エリック！俺達もう若くないんだからな！そんなと

ころで寝てたら、また本当に、風邪をひくぞ！

エリック うるっせえなー・・・。

エリック、起き上がる。

エリック お前と一緒にすんな、ローランド。俺はまだ、若いよ！

ローランド 何言ってるんだ、お前。三十越したらもう若くないの！

エリック いやいや。三十前半の俺と、三十後半のお前とじゃ、全っ

然違うよ！

マーティンとソフィアが、下手より入ってくる。

マーティン 一緒ですよ、俺らからしたら。

エリック ！お前、自分が二十代だからって調子に乗ってるけどな。

お前だって来年、三十だろ、マーティン！

マーティン 再来年です！

ソフィア それこそ、一緒だよねー。

マーティン ソフィア！お前、旦那に向かってそれはないだろ！

ローランド お前はもう十分、三十くらいに見えるから、一緒だな。

マーティン どういう意味ですか！？見えないですよ！ピチピチです！

イレーネ いや、ピチピチって・・・。

ソフィア あーあ、恥ずかし。ねえ。

サラ (笑)。はい、皆さん、そこまで！ほら！

皆でテーブルやソファの上を、片付ける。
皆座る。ローランド、資料らしきものをテーブルに置く。
皆、資料を広げる。

ローランド シュミレーションな、一応。ユーロが始まった時の。
イレーネ ……けっ…結構厳しいですね。目の当たりにすると。

サラ ……。

ソフィア どうなの？これって想定内なの？サラ。

サラ 想定…範囲内ではある…けど。

マーティン はい！

ローランド 何だ、マーティン！

マーティン ……今まで俺達、この差額分で食ってたじゃないですか。

ローランド うん？

マーティン いや、だから。イタリアのリラとか、結構、差額出せたじゃないですか。マルクをリラに替えたら7倍くらいに増えたし。

エリック ……そうだな。

マーティン わかっていたこととはいえ。ユーロになったら…。

エリック 時代の流れは止められないからな。それまでに、どれだけ

貯められるか、だ。そんな顔するなよ、マーティン。ほら。

ローランド まあ、まさか、ヨーロッパ全域で同じ通貨を使う時代がくるとは思わなかったよな。もう少ししたら、マルクもリラもフランも、この世からなくなるなんて…。

マーティン ちよつと寂しいですよ。国ごとの通貨がなくなつて、それが全部ユーロっていう金になるなんて。ここらあたり、どの国に行っても、ユーロ。便利だけど、味気ないよな。

ソフィア 両替の仕事がなくなるのに、寂しいなんて言ってる場合じゃない？

マーティン 両替の仕事しているからだろ。愛着あるんだよ、これでも。

イレーネ ……私達は一度経験してるから。自分たちの通貨がなくなるの。

ソフィア 東ドイツマルクが西ドイツマルクになったこと？

ソフィア 同じマルクじゃない？東ドイツ出身の人って・・・そういうとこあるよね。いつまでも、昔のこと・・・。

イレーネ ・・・・まだ十年よ、国がなくなつて。

ソフィア もう十年よ。ドイツが一つになつて。

全員、沈黙。

エリック よし。マーティン、笑え！

マーティン は？今？今ですか？

サラ そ、そうですよ、ほら。

マーティン ・・・・ええー。

エリック お前、いつも言ってるじゃないか。目覚めたら今日はい日。明日も、きつといい日。あの根拠のない、ヘラッとした笑顔を、こんな時にだな。

マーティン、笑つてみる。ウインクとかもする。

マーティン ・・・・ダメです。今の俺には心からの笑顔なんて・・・！

エリック、マーティンの頭をはたく。

ローランド ソフィア、・・・お前ちよつと笑つてみる。

ソフィア、カンペキなスマイル。

全員 おおー！

ローランド さすが、西出身！

マーティン なんですか、それは。

ローランド 言葉のとおりだよ。

サラ ふふふふ。

エリック おつ。そうそう、そんな感じで。明るく行こう。なつ。

全員、資料に目を向けるとまた暗くなる。

サラ　ねえみんな、まだちよつとだけ、タイムラグがあるじゃない？ユーロが全面的に始まるまで。

エリック　サラ、何かいい案あるか？

サラ　んー、そうですね。逆に、利益が上がる方向に……。

ソフィア　どうやって？

サラ　うーん。

皆、黙り込む。

エリック　寝かすか、いったん。

ローランド　おい！

イレーネ　そうですね。ちよつと、それぞれ考えませんか？

マーティン　そうしましょうよ。どうせ今日、結論とか出ないですって。

ローランド　お前はー。

マーティン　あ、お腹すきませんか？

イレーネ　そうね。

ソフィア　仕方ない。買ってくるかな。マーティン。

ソフィアとマーティン立ち上がる。

ソフィア　何かいるもの、ありますか？

ローランド　コーヒーきれそうだからさ、コーヒーも。

ソフィア　はーい。

ソフィアとマーティン下手に出ていく。

エリック、資料を見ている。

ローランド　あ、なんか重たいもん頼めば良かったな（笑）

エリック　よくできてるな。

ローランド　だろ？3年分のシュミレーションだ。

エリック さて、当たるかな。・・・実際どう思う？

ローランド どう？って？

エリック ユーロだよ。そんなにすぐ皆、慣れるもんかね。

ローランド ・・・人間、便利なものに弱いからな。案外、あつという間に、ここいらユーロで溢れて、前の通貨のことなんか思い出しもしないんじゃないか？ドイツが統一した時だって、そうだったろ？・・・物が無い東ドイツの頃は、部屋の壁紙一つ集めるのでも、凄く嬉しかっただろ？5年かけてちびちび集めて、近所の人皆でお互いの家の壁紙貼りあつて。・・・あんな時間はもう過ごせないんだ。きっとそれと一緒に。・・・もう5年集め続けないといけなかった壁紙は、ものの10分で手に入る。流行りものは一瞬で過去だ。その時気持ちがいいだけ。1年後には見向きもされないさ。

イレーネ そうですね。

サラ ・・・対策考えますか。

エリック ・・・だな。

ローランド 俺達も出かけるか。あの二人でいったなら、どうせちよつとかかるだろうしな。・・・甘いものでも食べに行くか。

イレーネ それこそ、ソフィア怒りそうですけど・・・？

ローランド さつと行って、さつと帰ってきたら、大丈夫だよ。

サラ ふふふ。お土産買って帰りましょ。

エリック ・・・ははは。

全員、下手にはける。

夜の照明になる。

エリック 下手奥から酒を持って入ってくる。

ソファで呑んでいるうちに眠る。左手にはラルフの吸入器を握っている。

上手からラルフが入ってくる。

ラルフ、エリックのずり落ちている上着を上をひっぱってかける。

ラルフ、エリックの頭を見る。

ラルフ あ、白髪だ。・・・歳とったなー。

エリック、目を覚ます。

エリック ラルフか。

ラルフ ああ。また呑んでるの？

エリック ああ。

ラルフ 風邪ひくよ。もう若くないんだからさ。風邪は万病の元つていうでしょ？

エリック うるせえ。ローランドみたいなこと言うな。

ラルフ ローランドにも言われてるのかよ。

エリック あいつもおっさんになったからな。

ラルフ それで、今日は何する？

エリック ー。

ラルフ ボードゲームでもする？

エリック、紙をとってきてマス目を書く。

エリック 食べ物？乗り物？旅行？

ラルフ 旅行にしよう。宇宙旅行。

エリック ガガーリンか。

エリック、マス目を書き足していく。

ラルフ 月は、2マス目くらいでいいんじゃない？

エリック、笑いながら2マス目に月の絵を書きながら、眠っていく

ラルフ、微笑む。

ラルフ おやすみ。

ラルフ上手から出ていく。

朝の明かりになる。

エリック、そのまま眠っている。片手に吸入器を握りしめている。

下手奥からサラが入ってくる。エリックを見つめる。

サラ　　また……。もう。エリックさーん！

下手奥からローランドが入ってくる。

ローランド　また、ここで寝てんのか。おい、エリック！

サラ、エリックが握りしめている吸入器に気づく。

サラ　　これ……？

ローランド　お、懐かしいなー。ガガーリンごっこ。「地球は青かった」

サラ　　ローランドさん、この吸入器。どうしてエリックさんが？

ローランド　ああ、それは、エリックの弟の……。

エリック、目を覚ます。サラが吸入器を掴んでいるのでびっくりする。

サラ　　あ、すみません、つい。ちよつとその薬見せてもらっても

いいですか？

エリック　　……。？ああ……。

サラ、薬をさつと、でも丹念に眺める。

サラ　　あの、エリックさん。この薬、発売されていないはずですか？

ど……。どうして、エリックさんが持っているんですか？

ローランド　発売されていない！？

エリック　　発売されてない！？（同時）

サラ　　この薬、ドイツが統一される前のやつですよ。

サラ この製薬会社、確かアメリカに本社があつて。

エリック アメリカ!?

サラ そもそも、東出身のエリックさんが、西ドイツの薬をなぜ?

ローランド サラ、発売されてないってどういうことなんだ?

サラ あー・・・。薬って発売される前に、実際に薬を使つてもらつて、データを取るんです。どう人体に影響があるか、副作用はどうか。

エリック ・・・・それは、わかるけど・・・。薬の治験だろ?

サラ 東ドイツは西ドイツに、積極的に治験者を提供していたんです。通常はちゃんと治験者に許可を得ないといけないんですが、秘密裏に行われていて。それで、そのデータは薬を提供した製薬会社だけではなくて、シュタージも持っていたんです。

ローランド ん・・・?

サラ 私はシュタージで、スパイの訓練のために、薬のデータをかなり憶えさせられました。もちろん、私も現役ではないですし、もう十年あまり前の話です。記憶に、絶対の自信があるわけはありません。

エリック お前がシュタージのスパイの部隊にいたのは知ってたけど・・・。

サラ 通称、A部隊。一応記憶力を買われていたので。・・・この薬は、喘息の薬として、一定の効果もちゃんとあったんですけど、急激な血圧の上昇がみられて。目などにも影響をすることがわかつて、発売中止になった薬・・・だったはず。あくまでも私の十年前の記憶ですが。・・・どうしてエリックさんが、これを?

エリック これは、・・・形見なんだ。

サラ 形見?

エリック ああ、弟の。

ラルフが上手より入ってくる。
机などに座っている。誰もラルフに気づかない。

ローランド サラ。この薬を使うことは、その薬を出した病院は西の

会社やシュタージに協力していたことに・・・なるのか？

サラ ええ。そうです。あくまでも私の記憶が正しければ。

ローランド エリック！

エリック ああ・・・。サラ。これが今ここにあるってことは、西の

製薬会社が東ドイツの人間で実験していたっていう、証拠になるんだな！

サラ まあ・・・。東の病院は金と薬が欲しかったし、西側とメ

リットが一致したんじゃないでしょうか？

ローランド ・・・・メリットって・・・。東が西に、人を売っていたって

ことになるんだよな！

サラ 売る・・・？

エリック 納得してないような口ぶりだな。

サラ 私はあの資料を目の前にした時、西と東はこんなに違うん

だなんて・・・。薬の種類と量があまりに違いすぎて・・・

やっぱり資本主義強いなって。社会主義と全然違うなって。さ

すがアメリカがバックにつくと違うなって。ショック

で・・・不思議ですね。こんなことが今更、役に立つなんて。

こんな・・・十年余りも経って。

エリック、ローランド、サラ、沈黙。

エリック つまりカミラ先生は・・・。

ローランド ああ。フィリップが掴んでいたのはこれだったんだ。

エリック、何かを思い出そうとする。

エリック ・・・・あの時・・・。シュタージはカミラ先生に、持ち出し

たサンプルと資料を渡すように言ってた。しつこく。

ローランド これが、そのサンプルか・・・。カミラ先生が持ち出した？

・・・何のために？

エリック、思い出そうとするが、どうしても思い出せない。
頭を押さえる。呼吸も荒くなる。

ローランド おい、無理するな、エリック。おい。

サラ、奥に入って水を持ってくる。

エリック、水を飲む。落ち着く。

エリック ローランド、フィリップはあの時、政府をゆすると言っていたな。

ローランド ああ。

サラ これで政府をゆすろうとした人がいるんですか？政府ってど
ちの？

エリック ・・・どっち？

サラ 東ドイツは、西ドイツと薬と治験者を引換にしていることは
知っていたんです。むしろ提供していたのですから。東ドイ
ツからしたら、このサンプルをつきつけられたとしても、今更
ですよ。

ローランド ・・・西か！？あいつ、これを公表しようともちかけるつも
りだったんじゃないのか？ ・ ・ ・いいか、あの時、ドイツは統
一しようとしていた。ドイツが統一しようとしている時に、西
ドイツが金で治験者とはいえ東ドイツから人を買っていたよう
なことがバレたら、大スキャンダルになる。それこそ、統一な
んでできなかったかもしれない！

エリック カミラ先生とフィリップが協力していたっていうのか？

ローランド そこまではわからない。わからないが ・ ・ ・持っていきよう
によっては ・ ・ ・勝算のない話じゃなかったんだ。 ・ ・ ・フィ
リップ ・ ・ ・。

エリック でも、どこで知ったっていうんだ？あいつ体も丈夫だったし
、ラルフや付き添いで行ってた俺と違って、カミラ先生にそん
なに会う機会 ・ ・ ・。

サラ 調べてみますか？

エリック ……。
ローランド どうする、エリック？ ……正直俺は気になる。けどお前
が辛いなら。
サラ そのフィリップさん、て人、今何されてるんですか？ どうい
ったお知り合いなんでしょうか？
エリック 昔、仲間だった奴だ。 ……遠い昔な。
サラ じゃあ、今何されているかわからないんですね？
ローランド いや、多分 ……。

暗転

八場

下手 フィリップのアジト

ルカ、ザビーネ、買い物してきたものをしまいこんだりしている。

ザビーネ ああいう恋はよくないの、あんたは気をつけなさいよ。

ルカ どうして？

ザビーネ そんなに情熱的な恋がしたいなら一度してみたらいいわ。た
だし、今のうち。

ルカ 簡単に言わないでよ！ 歩けば当たる石ころみたいに落っこち
てないんだから。

ザビーネ やっかいよ。

ルカ いいの、してみたいの！

ザビーネ ぐるぐるするだけよ、結局生活になってくんだから。勝てな
いの。

ルカ 何に？

ザビーネ 愛は、生活を越えられないの。それで、こんなハズじやなか
ったって、友達と愚痴って、また一日やりすごすの。それが一
杯のコーヒーが美味しいって、生きていける方法。

ルカ それじゃ、今と変わらないじゃない。

ザビーネ でもそこで、熱病みたいな恋をしたらどうなると思う？

ルカ それが今の二人？

ザビーネ そうよ。

ルカ そんな生活、捨てちゃうかも！

ザビーネ 捨ててもまたそこで、同じ日常が始まるのよ。いつかはね。

ルカ わからない。だって好きな人がいる日常は、違う日常じゃない？

ザビーネ コーヒーはどうなるの？

ルカ 好きな人と飲むんだから、美味しいに決まってるじゃない！

ザビーネ じゃあ、その魔法が解けたら？

ルカ 解けないよ、だって魔法じゃないもの。

ザビーネ 落差の話をしているのよ、私は。同じ恋なら、ジェットコー

スターじゃないのにしときなさいよ。

ルカ ……何で望んじゃいけないのよ？

ザビーネ いざという時にね、男は頼りにならないの。全てを賭けちゃ、だめよ。

ソファで寝ていたフィリップが起き上がる。

フィリップ あんまりルカに当たるなよ、ザビーネ。出て行ったあんたの旦那がそうだからといって、全ての男がそうだとは、限らないだろ。

ザビーネ ああ、フィリップ。悪いね、起こして。

フィリップ ……サイモンは？

ルカ さあ。いつもの酒場じゃないの？

フィリップ サマンサのところか。あいつも懲りないな。

ザビーネ どっちが？

フィリップ どっちもだ。

ラークが入ってくる

フィリップ 懲りないのが、もう一人。

ラーク 何の話？

ルカ ねえ、ラーク！こんどはもちそうじゃない？ サマンサとサ

イモン！

ラーク ……どの部分が？

ルカ 今までで一番、幸せそう！

ラーク むしろ、今までよりもさらにテンション高いところに、俺は

終わりを見るけど？

ザビーネ ほら。

ルカ あーあ。

ザビーネ だから美味しいのよ、このコーヒーが。

ラーク この色・・・それサイモンのやつだろ。確か結構いいやつだ

ぜ？

ルカ そうなの？

サビーネ 大丈夫でしょ。今のサイモンなら。

ラーク ……確かに。

ファイリップ ……そうだな！俺も飲もう！

ファイリップ、自分でコーヒーを淹れて持ってくる。

ファイリップ うまいな！どこのやつだ、これ。

飲んでるところにサイモン入ってくる。

全員、結構なスピードで飲み干す。

全員でコップを下げる（奥に）。

ファイリップ よう、サイモン！

サイモン あ、ああ・・・。どうし・・・？

ルカ おかえり、サイモン！

サイモン ああ、ただいま・・・。

ファイリップ 揃ったところではじめるか。ラーク！

ラーク ああ。

ラーク、地図を広げて、紙切れや写真をテーブルに置く。

ラーク 250、は堅いと思うぜ。

ルカ そう？

フリリッ プ どうだ？サイモン。

サイモン そうだね。このタイプは開けるのに、ちよつと時間がかかる

から好きじゃないけど。でも、まあ。やれなくはないよ。

ラーク 壊したほうが早いかな？

サイモン ……同じくらいかな。結構このドア、厚みあるんじゃない？

フリリッ プ 何分かかるんだ、開けるのに。

サイモン 3分…は、かかる。

フリリッ プ そんなにか…！

サイモン このタイプの鍵は、ちよつとコツがいるんだ。

ルカ じゃあ…。

ザビーネ そうだね、駐在所の位置から考えると…。

フリリッ プ ザビーネ。お前ならどの位置に、車を置く。

ザビーネ ……ここか、ここだね。

ルカ ここは厳しいんじゃない？

サイモン 俺もそう思う。

ラーク そうか？

サイモン ただ走るだけなら、問題ないけど。

フリリッ プ ラーク。カメラの位置は？

ラーク ここだ。

ルカ カメラは、切っておきたい。

全員、少しの沈黙。

ザビーネ ルカ。逆に、予定よりも早く、気づかれるんじゃないか？

ルカ ……でも、この位置じゃ。やりづらい。

サイモン ……ここからこの範囲は映る、のかな？ラーク？

ラーク ここまでは。

ルカ そうだ…思い出した！犬がいるよね？ここ。

フリリップ 犬!?

ルカ ここのお手伝いさん、ドッグフード買った。

フリリップ そうなのか? ラーク。

ラーク いや、いないはずだぜ? 前を通っても吠えられなかったし。

ルカ 何かの間違いじゃないのか、ルカ。

ルカ いや、確かに見たよ、スーパーで。あのお手伝いさん、い

つも買ってますって、感じだった。

ラーク 散歩してるとこなんか、見たことないぜ。

サイモン ……この家族構成的には、いてもおかしくない。

フリリップ お前の経験だと、そうなんだな?

サイモン ……ラークの下調べを、疑ってるわけじゃないけどね。

ラーク ……。

ルカ じゃあ、もう少し調べようよ。

フリリップ そうだな。

ラーク ……(溜息)。

ラーク、立ち上がって出ていこうとする。

ルカ !? どうしたの? ラーク!

ラーク ……だから! もっと調べるんだろ!?

ルカ そうだけど…。

ラーク ……前はもう少し、強気でやってたと思うけどな! 毫

破してしまったな、フリリップ!

ラーク、出ていく。

ルカ 何あいつ!

フリリップ 自分で見つけてきた山だから、ウズウズしてるんだろ。

ザビーネ 所詮チンピラ上がりだね。拾ってもらったくせに。

サイモン ……かわいいもんじゃない?

ルカ えー!?

サイモン 捨てられない、ってわかってるから言えるんだよ。

サイモン

親に構ってもらいたい、駄々っ子と、同じ。

ルカ

あれをそうとるかー。優しいね。サイモンは。

サイモン

そう？

ルカ

うん。

ルカ、机のぬいぐるみを触る。

ルカ

ちよっとだけ・・・そういうとこ似てる・・・。

サイモン

その、ぬいぐるみ作ってくれた人？

ルカ

うん。ラルフもいつもそんな風にね、収めてくれてたんだよ

ね・・・。

ザビーネ

・・・昔仲間だった双子の男の子？

ルカ

うん。

フリリツプ

・・・。

サイモン

そうだ！気晴らしにコーヒーでも淹れようか！王室に献上

されたやつあるんだ♪

フリリツプ

王室！？

ルカ

・・・そんなにいいやつ、だったの？

サイモン

サンドラが教えてくれたんだ、テレビで見たって。どうし

ても飲んでみたい、っていうから奮発したんだ♪

サイモン 奥にむかっているとところで暗転

また明かりがつく。

サイモンが器具の手入れをしている。桐みたいなものなど。

ラーク、上手より入ってくる。

ラーク

お前なんであんなこと言ったんだ？余計な真似しやがって。

サイモン、無視して器具の手入れをしている。

サイモン

今、作業中。わかる？

ラーク
サイモン
・・・ルカの時とえらい違いじゃねえか。
そりゃあ。・・・あんな不安な状態でやられる方が困るだ
ろ？ ったく。君はいつもつかつかかってくるね。お守りはル
カだけで十分なんだけど。

ラーク
サイモン
お前だったら余裕で跳べんだろ。あの家の、塀の壁くらい。
君も跳べるんじゃない？ ルカも・・・行けるかもね。
・・・。

サイモン
ラーク
まだ、何かあるの？
いいじゃねえか。・・・一度でもあんな脚光浴びたんなら。
・・・オリンピックだぜ。

サイモン
ラーク
強化選手だよ。実際に行ったわけじゃない。
けど。

サイモン
ラーク
もう、いいだろ。あんな子供の頃の話・・・。それとも、
凡人と天才の話でもする？

ラーク
サイモン
・・・！
ルカは正しいよ。ちゃんと臆病ってのは、まともだってこ
とだ。麻痺と度胸は違う。お前、そのうち大怪我するよ。
しねえよ。何びびってんだ。

サイモン
ラーク
やっぱりお前は子供だよ。使い物にならなくなった時・・・
誰も相手になんか、してくれなくなるんだぜ。
・・・それ、あんたの話？
・・・。

サイモン、器具を片付ける。

サイモン
さて、僕は手入れ終わったよ。君は？

ラーク
俺は特に。

サイモン
そう。

サイモン、器具を抱えて出ていく。

ラーク
今に、見てろよ。俺はここから抜け出してやる。

ラーク ……俺はな。

暗転

九場

下手 明かりがつく。

エリックのアジト

マーティンがイレーネの肩にもたれてくる（何か甘えてください）

イレーネ ちょっと。

マーティン ん？

イレーネ 誰かに見られたらどうするの？

マーティン 買い物に出てるんだろ？大丈夫だよ。あいつ長いもん。

イレーネ ……何かあった？

マーティン ……別に。

イレーネ ……よしよし？

マーティン あ、よしよしも欲しい。

イレーネ も？

マーティン ……やっぱりお前のよしよしが一番落ち着く。

イレーネ あんたって…そうだよ、子供の頃から。

マーティン ……女しかいなかったからさー、うちも。

イレーネ ……うん。

マーティン 近所のおじちゃんが、肩車とかはしてくれただけだよ。

イレーネ みんながみんな、あんたみたいに甘えん坊に育つわけじゃ

ないと思うけど？

マーティン そうかな。

イレーネ そうだよ。

マーティン たまに。

イレーネ ん？

マーティン 戻りたくなる、ことがある。あの、皆で見た夕焼けとか。

マーティン おばちゃん達が作ってくれた、スープとか。

イレーネ 想い出だから、そう思えるんだよ、マーティン。一杯怒られてたくせに。

マーティン いつも、俺は劣等生で・・・お前は優秀で。眩しかったな・・・。イレーネ？

イレーネ ん？

マーティン 西の奴らには絶対わからないことって、わかりあえないことってあるよな・・・。

イレーネ ・・・・それか。西の出身のソフィアを選んだのは、あんたでしょ。

マーティン ・・・・そうなんだけどさ。だってあいつさ・・・。あんなこと言うんだもんな・・・。

イレーネ ・・・・？

マーティン 西が東を助けてやってるってやつ。確かに、西の人達の税金のおかげだよ？今の東があるのは。でもさ、西だけが被害被ってるみたいなさ。東はお荷物みたいなさ。いちいち、なんか上から目線なんだよな・・・。

イレーネ マーティン。もしあの時、壁が壊れなかったら。私達、シュタージとして、誰かを殺してたかもしれないんだよ。

・・・それでも、戻りたい？

マーティン ・・・・それでも。

暗転

下手 明かりつく。

エリックとイレーネがいる。

エリック 抜きたい？

イレーネ もうこれ以上は、無理です。

エリック ・・・・。

イレーネ ・・・・すみません。

エリック そんなにか。

イレエネ　・・・。

イレック　俺がマーティンと話す。

イレエネ　何を話すんですか？

イレック　率直に言う。お前に抜けてもらっては困る。お前が抜けるく

イレエネ　らいなら・・・あの二人を外す。

イレック　もう顔も見たくないんです。一刻も早く、逃げたいんです。

イレエネ　ダメだ。

イレック　どうしてですか！？

イレエネ　あの二人は夫婦だ。きっと、どうとでもなる。

イレック　私は一人だからダメってわけですか。同情ですか？

イレエネ　愛情だよ。親の、ね。

イレック　そんなに私と年変わらないじゃないですか、イレックさん。

イレエネ　そういうこと言ってるんじゃない。

イレック　・・・。

イレエネ　イレエネ。

イレック　もう、これ以上醜くなりたくないんです・・・！それにこんな

イレエネ　な状態じゃ、役になんて立てないと思います。

イレック　役に立つかどうかは、俺が決める。

イレエネ　・・・。

イレック　何もお前が、全てを失う必要はない。

イレエネ　そうでしょうか。

イレック　・・・。

イレエネ　・・・どうして、こんな風になってしまったんでしょうね。

イレック　元から自分のものじゃないのに・・・息が詰まる。

イレエネ　なのに、制御がきかない。私、こんな人間じゃなかった。

イレック　・・・なかったのに。

イレエネ　・・・そこに座れ。す・わ・れ。

イレエネ　椅子に座る。

イレック　酒とコップを持ってくる。

イレエネ　酒をついでイレエネに渡す。自分のもつぐ。

イレエネ　一気に飲む。

エリックも飲む。
二人何杯か飲む。

エリック　少しは気が済んだか。
イレーネ　・・・すみません。
エリック　てか、お前強いな！？
イレーネ　知らなかったんですか？
エリック　知ってたけど、今結構なペースで飲んだらろ！
イレーネ　ギブアップですか？
エリック　・・・。

イレーネ、エリックのコップに酒をなみなみとつぐ。
イレーネ、自分にもつぐ。

イレーネ　備えよ！
エリック　・・・備えあり！
イレーネ　懐かしいですね、ピオニールの頃。
エリック　・・・そうだな。
イレーネ　皆でキャンプして。
エリック　あの頃は何をするにも、皆一緒だったもんな。
イレーネ　そうですね。あんなのがずっと続くと思っていたんですけどね。・・・（苦しくなる）すみません。
エリック　いや・・・。
イレーネ　父がシュタージに捕まったのは、十歳くらいでした。私は生活のために、シュタージの訓練生になりました。
エリック　・・・そこに、サラもマーティンもいたんだろ？

イレーネ　そうです。でもサラと一緒に訓練していたのは、三年間だけ。後のことは知らないんです。サラだけ途中でA部隊に別れちゃって。サラは国境警備隊の私やマーティンとは違う訓練をしていたはず。A部隊以外の人間には、サラ達が何の訓練していたか、知らされていないんです。

イレーネ A部隊っていいのは、スパイの部隊なので。

エリック そんなに、サラは優秀だったのか？

イレーネ そうですね。サラは・・・記憶力が。一回なんでそんなに

覚えられるのって聞いたたら、彼女、なんて答えたと思います？

エリック ・・・・（考えている）。

イレーネ 見ているものを、頭にそのまま写すんだそうです。写真を撮

るみたいにな。・・・言ってることわかります？

エリック いや。

イレーネ でしょ？

エリック じゃあ、マーティンとはずっと・・・？

イレーネ そうですね。ずっと。ドイツが統一されるまでは。来る日も

来る日も、一緒に訓練して、警備して。もう随分と昔の話で

す。できることなら、記憶ごと消したい。

エリック お前の人生の何分の一だ。それをまるごと消したいか。

イレーネ ・・・・よく。よく胸が痛むっていうじゃないですか、ほらこ

のあたりが、キューっとなるって。でも私、胸じゃなくて、た

まに指先が痛むことがあるんです。手も足も全部ほんとに痛く

て、痛くて。このまま痛みで死ぬるんじゃないかって。

エリック 平和だな。

イレーネ 人の話、聞いてます？

エリック 愛で死ぬるなんてのは、妻に先立たれた老人ぐらいなものだ

ろ。

イレーネ ・・・・言いますね。

エリック 本当に死ぬやつは「生きたい」っていうからな。・・・お前

だって何人も見てきたんだろ。

イレーネ ・・・・そうですね。・・・私、ほんと馬鹿ですね。・・・

伝えるべきじゃなかった。言うべきじゃなかった。あの時言わ

なかったら、始まることも、終わることもなかったのに。

エリック イレーネ。俺は警察じゃない。裁判官でも面接官でもない。

何より俺だって大層な奴じゃない。ただ、お前は俺の大切

な仲間だ。だから死にたいほどパニックになる前に、言い

来い。

イレーネ　　こんな、馬鹿げた話をですか？

エリック　　他に言える奴いないだろ。あ。今度から酒は、お前が用意しろよ。

イレーネ　　（笑）ありがとうございます。・・・もう大丈夫です。

エリック　　・・・そうか。

イレーネ　　はい。・・・じゃあ。

イレーネ、コップ持ったまま下手にはける。

エリック、そのまま飲んでいる。吸入器を取り出して眺める。

エリック、コップを持ってくる。吸入器の前に置く。

置いたコップにも酒をついで、コップを合わせる。

上手よりラルフが入ってくる。

ラルフ　　今日も飲んでるの？

エリック　　まあな。

ラルフ　　それ、俺の？

エリック　　ああ。

ラルフ、テーブルに座る。酒に手はつけない。

エリック　　・・・どうしたもんかな。

ラルフ　　相変わらずだな。あーゆーのって会わせないようにするしか

方法ないんじゃない？

エリック　　・・・そうなんだけどさ。

ラルフ　　兄貴は、優しすぎるんだよ。そもそもシユタージを受け入れたことと正しい。

エリック　　・・・あんなに権力もつてた奴らが、行くあてがない。

迷ったがな・・・まあ。あいつらは問題ないよ。

ラルフ　　それで、今日は何の話する？

エリック　　今後のヤマの話をするか、ペンキ屋の話をするか？

ラルフ　　ペンキ屋って、・・・十歳くらいの時？

エリック　　そう。お前が、漫画に影響受けて・・・。

ラルフ、エリック、笑っている。
明かりついたまま、暗転幕閉まる。

十場

幕前

下手にベンチが置いてある。

あたりを見回しながらラークが下手から入ってくる。
ベンチに座る、ベンチの下から紙切れを取り出す。
読んでいるところに上手よりニーナが入ってくる。
さりげなく隣に座る。

ニーナ 状況はどうかしら？

ラーク 問題なく、うまく行っています。

ニーナ 頭に入れた？

ラーク ええ。

ラーク 紙切れをベンチに戻す

ニーナ ……いよいよね、ラーク。

ラーク ……そうですね。

ニーナ 長かったわね。

ラーク ……何の確認ですか？

ニーナ ……。

ラーク 任務はちゃんと遂行します。俺は他の奴と違って、情に溺れたりしませんよ。

ニーナ ならいい。今回は思ったより時間がかかってしまったから。

ラーク 思ったより？

ニーナ ……お前の目にはどう映ってるんだ、ラーク。

ラーク 俺の目？

ニーナ そうだ。

ラク お前と、このあたりのグループは消えたように思いますが。お前の情報のおかげでな。案外、お前は、いろんなところで仲間を作る質だったんだな。お前が少年刑務所にいた頃は随分衝突していたみたいだったが。

ラク ……

ニーナ フィリップと出会って、もうどれくらいになる？

ラク 数えてないですよ、いちいち。

ニーナ ……そうか。そういうものか。

ラク ……俺は、どうせ、「かわり」だ。

ニーナ ……？それはそうと、犬の件はすまなかつたな。

ラク いえ。うまく処理してもらって、助かりました。これでもう大丈夫です。ルカは言いだしたら聞かないから。

ニーナ あの子はいつも、我々の張つているところを回避する。寸でのところ。一番本能的な勘に、長けているかもしれないな。

ラク あいつが？ ……ですか？

ニーナ ああいうのは、案外扱いづらい。

ラク 貴方にも、苦手がものがあるんですね。

ニーナ 苦手というほどでもないがな。ちよつと読みづらいだけだ。

ラク 俺からしたら、サイモンの方がよっぽど何考えてるか。

ニーナ お前は彼の全盛期を知らないだろう。全国民が彼に注目を

していた。天才、神童。私達の世代では知らないものなどい
なかつた。あの大怪我さえなければ、世界中にその名を轟か
せていただろう。…いや、どうかな。あの頃、彼は国に
よつて薬漬けにされていたはず。遅かれ早かれ…。

どんなに薬で恐れがなくなろうと、筋肉が増えようと、所詮
人は人だ。

ラク ……

ニーナ それより、ラク。この任務が終わったらお前は晴れて、警
察官だ。

ラク ……ほんとですか！？

ニーナ ああ、長い間ご苦労だった。おめでとう。

ラーク ……（嬉しい）。
ニーナ では、その名に恥じない働きを頼む。
ラーク ええ。ええ、任せてください。……では。

ラーク 上手に去る。

ニーナ 見送って紙をポケットになおす

ニーナ 下手に去る。

下手より、ザビーネがやってくる。

ベンチに座ってくつろいでいる。

下手より、メアリーがやってくる。

メアリー ザビーネさん、でしょ？

ザビーネ ……？

メアリー 私、メアリーです。パン屋の。

ザビーネ メアリー！？ほんとに！？随分大きくなったわね！

メアリー ザビーネさんも元気そうね。

ザビーネ 幾つになったの？

メアリー 二一です。

ザビーネ そう……！あんなに小さかったのに……！

メアリー もう、私も大人です。……ザビーネさん。あの……今

日は大事な伝言があつて。……大学の友人から頼まれてきたの。

ザビーネ 私に？

メアリー 旦那さん、生きてるわ！

ザビーネ ……え？

メアリー 生きてるの。

ザビーネ ……そんなはずないわ。なんなの？急に……。

メアリー 正確に言うと、死にそうなの。

ザビーネ ……。

メアリー ……。

ザビーネ ……続けて。

メアリー　　ザビーネさんが西に出ていく旦那さんを、シユタージに密告したことは、町の人皆知ってる。

ザビーネ　　・・・。

メアリー　　旦那さん収容所に送られたと思つてたでしょ？実は逃げきれていたらしいの。

ザビーネ　　まさか！そんなはずないわ、だつて！

メアリー　　友人に聞いたの。というか私も会わせてもらったの。お父さんに。

ザビーネ　　・・・あなたの友達つて、あの女の・・・？

メアリー　　会いに行つてあげてほしいの、死ぬ前に旦那さんに。それが友人というか、あなたの旦那さんの願ひなの。

ザビーネ　　自分を殺そうとした人間に、会いたい人間なんているわけないわ。あなた本当にメアリーなの？

メアリー　　信じてくれないなら、それでもいい。

メアリー　　メアリー、ザビーネに紙切れを渡す

メアリー　　病院の名前らしいわ。

ザビーネ　　必要ない。

メアリー　　時間がないの、よく、考えて。

メアリー　　メアリー、ザビーネに紙切れを押し戻して握らせる。

メアリー　　メアリー下手に去る

ザビーネ　　紙を握り締めたまましばらくつたっている。

ザビーネ　　メアリー、上手に去る。

幕があく。

上手、フィリップのアジト

ルカとフィリップがいる。

ザビーネが入ってくる。

ファイリップ どうした、浮かない顔して。
ザビーネ ……妙なことがあってね。
ルカ ちよつと大丈夫？ 顔色悪いけど。
ザビーネ ああ、ちよつと……。
ルカ その、握り締めてるの何？
ザビーネ ああ、これは……。ルカ、子供ってのは……。大人の顔を正確に覚えているものかな？
ルカ え？ いくつくらい？
ザビーネ 例えば、十歳とか……。
ルカ えー……？

ドアの前にラークがいる

ザビーネ ねずみが、スパイがいるんじゃないか。私達の中に。
ルカ ん？
ザビーネ だって、あの町を出た私の行方が何故知られているんだ！
ファイリップ おい、どうした？
ザビーネ ……あいつが、……。旦那が生きてて、でも死にそうで、会いに来てほしいと……。

ザビーネ ファイリップに紙を渡す

ファイリップ ……で、どうするんだ？
ザビーネ いや、罠かもしれない。
ファイリップ 罠？
ルカ でも、本当だったら？
ザビーネ それは……。
ファイリップ 調べてみてもいいが……。
ザビーネ 頼むよ……！
ルカ ねえ、ザビーネ。とにかく横になったら？

ルカ、ザビーネを奥に連れて行く。

ラーク入ってくる。

ラーク 　　ただいま。

フィリップ 　ああ。・・・どこに行ってたんだ？

ラーク 　　どこについて・・・。どうしたんだ、フィリップ。

フィリップ 　いや・・・。

ラーク 　　ちよっと下見がてら、散歩だ。

フィリップ 　そうか。

　　ルカ、入ってくる。

フィリップ 　どうだ？

ルカ 　　うーん、なんか混乱してる。大丈夫かな。

フィリップ 　当日までには落ち着いてもらわないと困るが。ザビーネが

いなけりゃ、動きを把握する奴が・・・。

ルカ 　　でもコトがコトだけに。

ラーク 　　何かあったのか？

ルカ 　　うん、ザビーネが。

フィリップ 　ルカ、何かザビーネに買ってきてやれ！

ルカ 　　そうだね。

　　フィリップ、ルカにお金渡す。

　　ルカ出ていく。

フィリップ 　大丈夫なのか、警察の方は。

ラーク 　　今のところ、目立った動きはないぜ。

フィリップ 　そうか。

ラーク 　　なあフィリップ。神経質になりすぎだぜ、最近。

フィリップ 　神経質にもなるさ！今月だけで何グループ潰されたと思っ

てるんだ！俺達はお前のように、スパイを送り込んで警察の動きをさぐっているから、寸でのところで逃げられてきただけだ。

ラーク ……確かに締めつけが強化されてるのは、事実だけど。
ファイリップ お前を拾った時と比べたら……くそつ。今度のヤマが終
わったら、しばらく動けないかもな。

ラーク え？

ファイリップ 本当は、今度のヤマだつて……。

ラーク 待てよ、ファイリップ。今度のヤマは！

ファイリップ ああ。わかっている。あいつも昔、国を売っていた人間だ。

ああいう奴らには因縁もあるしな。お前がそれを見つけてく
るなんて、運命めいたものは感じるよ。

ラーク ……運命。あんたのいう運命って。

ファイリップ 何だ？

ラーク いや。あの時もそんなこと言ってたなっと思って。あん時は
あんたが、救世主に見えたよ。

ファイリップ ふつ。もう五年だな。

ラーク ああ……。感謝してるよ、ファイリップ。

ファイリップ なんだ急に。人の墓の前で泣いて寝ていたガキだったくせに。
……お前なんであんなところで寝てたんだ。

ラーク (笑)。バナナが置いてあったんだよ。あの墓のところには。

腹が減ってたし、疲れてたんだ、ひどく……。なあ、ファイ
リップ。あの墓……。ルカがたまに言う、ラルフって奴のな
んだろ？

ファイリップ ……。

ラーク ……そんなに心配なら、皿を作るか。俺に考えがある。

……あんたの運命に、全て決着をつけてやるよ。

暗転

十一場

エリックのアジト

エリック、ローランド、イレエネ、サラ、マーティンが集合している。

ローランド 奴らの狙いは？

マーティン わからない……。ただ、ここに来いと。

エリック しつかりしろ！お前のソフィアだろ！

マーティン はい……。

サラ これ、どうしてエリックさんとローランドさんの名前も？

マーティン だけじゃなくて。

マーティン ……え？

マーティン、再度手紙を見る。

サラ しかも、指定の場所。なんでここなんですかね？

エリック ……この倉庫は、確か、……どこのものだったかな。

表向きはなんてことない倉庫だが、貯蔵庫のはずだ。闇ルトの。

ローランド 読めたぞ。……俺達を囮にする気だ。ここは警察本部からも近い。

イレーネ じゃあ、彼らはこの日に、どこかで犯行を？

エリック ……飛び込むべきか。

マーティン え？

ローランド 下手すりゃ、犬死にだな。

マーティン ちよつと待ってください！何言ってるんですか！

サラ、手紙の文面を何度も読んでいる。

マーティン、さすがのようにイレーネを見る。

イレーネもマーティンを見るが、どうしたらいいかわからない。

エリック どうして、今になって……。

ローランド ああ。今まで関わらずにやってきたのにな。

サラ ……ソフィアもそれなりに強いのに。さらわれるなんて。どうして。

マーティン ……。

エリック 喧嘩でもしたのか、ソフィアと。

マーティン ……俺のせいです。すみません。でも……お願いします
す……！

サラ ……仕方ありません。向こうがその気なら、こっちも、奪
いましょう。

全員、サラを見る。

サラ ……完全に勝算がないわけではないですよ。こっちには、
シュタージで訓練受けた人間が、三人もいるんですから。

イレエネ ……どうしたらいいの？

サラ 何も約束の期日を守る必要はありません。先に動きましょう。

私達をここにおびき寄せて、警察の注意を引くつもりなら、
彼らはどこで犯行をするつもりか。そのヤマを先に奪うか、も
しくは騒ぎを彼らにぶつけて起こすか。

マーティン そんなことしたら、ソフィアが！

サラ ソフィアを傷つけさせないために、こっちが、先にカード
を切るんです！

イレエネ マーティン。

マーティン ……。

サラ 何か、手がかりがあれば……。

ローランド、机の引き出しからノートを持ってくる。

ローランド フィリップの犯行と思われる記事が貼ってある。何か役に立
つか。

サラ ええ。あと地図を。

イレエネ、地図を持ってくる。

サラ、ノートを見ながら地図に印をつけていく。
全員覗き込んでいる。

サラ 地区によって、結構、集中し……。

サラ、ノートを見る。

サラ　これは・・・もしかして。イレエネ。

サラ、イレエネ、ノートを見ていく。

サラ　覚えがある名前ある？

イレエネ　・・・この人！サラ、この人も・・・！

サラ　・・・私も覚えがあるわ。・・・エリックさん、ローランド

さん。・・・何故、彼らは、シュタージの協力者でありながら、西で出世した人間を、こんなに狙っているんでしょう？

エリック　・・・なんだって・・・？

サラ　私は文書を焼かれる前の記憶がありますから、わかるんです。

イレエネも、取り締まる側として、シュタージの協力者の何人かは知っていたはずですよ。彼らがどうやってそれを突き止めたのかわかりませんが、私には彼らなりの復讐に思えます。もしくは・・・償い。

エリック　・・・償い？

サラ　何かを消そうとしてるんじゃないかと。

エリック　・・・。

サラ　・・・フィリップさん、ってこの間教えてくれた方ですよ。元仲間だった・・・。

ラルフ（20代）が入ってくる。誰も気づかない。

エリック　・・・ああ。

サラ　ドイツ統一時、西を告発しようとしていた。でもその計画は失敗した。・・・弟さんの形見・・・。何があったんですか？あのサンプルの薬をめぐって。

ローランド　・・・俺達は・・・間に合わなかった。ラルフは銃で・・・殺されたんだ。

マーティン　えっ・・・。

ローランド あの時、ほんのちよつとの差だったんだ。シュタージが潰れるまで。

エリック ……沢山の足音を今も、覚えているよ。町の人が沢山押しよせてきた。

イレーネ 撃たれたんですか？誰に？

エリック シュタージだ。

サラ、イレーネ、マーティン、固まる。

マーティン 弟さん、シュタージに殺されたんですか？どうして？

エリック ……巻き込まれたんだ。巻き込んだのは……フィリップだ。

エリック、ポケットから吸入器を取り出す。

エリック ……これは、俺達が小さい頃から見てくれていた先生が、弟にくれたものだ。この間、サラが教えてくれたよ。これは発売前の西の薬だろうって。東は西に、薬の治験者を、患者に知らせずに提供していたって。……フィリップは、そうやって先生が西に協力していたことを、何かで知ったんだろう。西と東が一つになろうとしている時に、東が西に人間を売っていたことがわかれば、きっと大きなスキャンダルになる。だからそれをネタに、フィリップは……西側の政府をゆるそうとしたけど、そもそもフィリップに、そんなところと交渉できる力なんてなかった。握りつぶされて終わりだ。……俺達は知らされてなかったし、どれくらい準備をフィリップがしていたかわからない。そのカミラ先生と協力も出来ていたかどうか……。案の定、先生がシュタージに捕まって、たまたま居合わせた弟まで巻き込まれた。

ローランド 先生とラルフ……エリックの弟がシュタージにさらわれて。

俺はフィリップ達と、シュタージの本部へ向かった。たどり着いたら大勢の町の人が、シュタージの本部を占拠していた。

ローランド　でもそこに、先生とラルフはいなかった。・・・そのうち町の誰かが、夜なのにゴミ処理場に煙が上がっていることに気がついた。みんなで向かった。エリックは、最初からゴミ処理場に向かった。でも間に合わなかった。かけつけた時にはもう、ラルフは・・・。エリックも大怪我を負っていて。こいつは3ヶ月間、記憶が戻らなかったんだ。

エリック　・・・気づいたら、ラルフはもう土の中だった。たった一の弟。俺のたった一人の肉親。俺の片割れ。一緒に生まれてきたのだから、当然、一緒に死ぬものと思っていた。あの時まで
は・・・。

ローランド　それまでは、俺達はいいい仲間だったんだ・・・。
イレーネ　・・・弟さんも？

ローランド　ああ。皆、ラルフが大好きだった。体が弱かったから、俺達のように動けなかったけど、でも大切な、子供の頃からの、仲間だったんだ。

サラ　・・・わかりました。・・・では、金でおびき出すのはあまり・・・私達が先にヤマを奪ったところをたいして。エリックさん、その薬、カードにさせていただけませんか？その薬とソフィアの交換を、申し出ましょう！

エリック　・・・これは。

サラ　わかってます。大事な形見だって。本当に渡す必要はありません。おびき出す、口実にさせてください。この薬は、そのカミラ先生が持っていたサンプルだと、フィリップさんに。

サラ　エリックさんやローランドさんの知りたかったこともあぶりだしましょう。

エリック　・・・そして？どこに、呼び出すんだ？

サラ　エリックさんの町に。想い出の場所に。

エリック　・・・それが、戦術として、効果的なんだな。

ローランド　でも、それは、俺達にとっても。

イレーネ　・・・守ります。私達が。絶対に。お二人を。

マーティン　その薬も。だから、力を貸してください。お願いします。

ローランド　エリック。

エリック　　ああ。

エリック、ローランド、目を合わせる。
溶暗。

十一場

地下室

エリック、ローランド、マーティンがいる。
イレーネとサラはソファの後ろなどに隠れている。

フィリップ、ルカ、サイモン、ラークが入ってくる。
お互いに無言でにらみ合っている。

フィリップ　　元気そうじゃないか。

エリック　　お互いにな。

フィリップ　　随分と懐かしい場所を選んでくれたものだな。

エリック　　・・・ふさわしいだろ、俺達の再会に。

フィリップ　　ああ、そうだな。・・・サンプルの薬は？

エリック　　ソフィアが先だ。

フィリップ　　ラーク。連れてこい。

ラーク　　安心しろ。丁重に、別の場所で待機してもらっている。

フィリップ　　・・・角の車の中だ。もう一人の仲間と一緒にいる。

ラーク　　ちっ。なんで言うんだ。

ルカ　　こんなやり方・・・。

サイモン　　ルカ。

ルカ　　わかってる。

フィリップ　　これが、その車のキーだ。

フリリップとエリック、車のキーと薬を交換する。
お互いに確認する。

サイモン　確かに、この薬は俺もなんとなく見覚えがあるよ。俺達の練習を、たまに見に来ていた会社が、コーチに見せていたのを見たことがある。少なくとも、あの当時の、あの会社のものだね。・・・あなた律儀に本物持ってきたんだね。てっきり俺とラークは、適当な偽物を持つてくると思っていたよ。・・・フリリップ、大丈夫だ。

フリリップ達が去ろうとしたところで、イレーネとサラが出てくる。
ラーク、笑う。

フリリップ　・・・どういうつもりだ。

イレーネ　それは、ラルフさんの形見ですから、渡すわけにはいかなんです。

ラーク　フリリップ。あんたはいつも、お人好しすぎるんだよ。

フリリップ達VSエリック達（アクション）

エリックとフリリップがお互いつかみあう状態になる。

エリック　そのサンプルは、ラルフの形見だ！お前はカミラ先生と協力していたのか！

フリリップ　いや、協力までとは言えない。俺は、カミラ先生に頼まれて小包を送っただけだ。その小包もどうなったかわからない！

エリック　それで知ったのか！本当なんだな！

フリリップ　ああ、今更嘘について何になるんだ！

エリック　じゃあ、お前、そのサンプルをどうするつもりだ

フリリップ　今度はもっと慎重にやる。・・・あの時壁が壊れたことで失ったものを、失ってきたものを、今度こそ、証明してやる。

エリック　・・・そうか。

つかみ合いをやめかけたところで、ラーク、銃を出す。
ラーク、銃をフィリップに向けて発砲する。
全員、びつくりする。

フィリップ お前、何を……！！

ラーク 連続で発砲する。

ルカ フィリップ！

サイモンとローランド、ルカを止める。

ルカ フィリップー！！

ラーク、フィリップが死んだのを確認する。

ラーク 取引をしないか。

エリック 取引……？

ラーク じきに、ここに警察がくる。

エリック 警察だと……？

ラーク 説明している暇はない。確かな筋の情報だ。それとも全員で捕まるか？

マーティン 待ってくれ。確かな筋の情報……？そんなのなんでわかるんだ。どうやって証明する！

ラーク 証明？……ああ。お前が旦那か。思ったとおり、ぽやっとしてるな。

マーティン そんなこと今どうでもいいだろ！仲間を殺すような奴の、どこが信用できるっていうんだ！

ラーク 仲間じゃない！俺はいいように、使われていただけだ！！

ルカ あんた……！よくも……！

サイモン ルカ！

エリック で。取引って、……なんだ。

エリックもラークに銃を向ける。
ラークもエリックに銃を向ける。

エリック　で、どうするんだ。
ラーク　まず。

ラルフがふらっと入ってくる。
ラルフが空き缶を蹴る。

ラーク、一瞬気を取られた隙に、エリックに足を撃たれる。

エリック　ㄱ　ラーク（アクション）

もみ合っているところにドイツ警察が入ってくる
その警察の中にソフィアもいる。メアリーも。
ソフィア、銃を上に向けて発砲する。

ソフィア　警察だ！全員手をあげろ！
サラ　・・・ソフィア・・・！

サラ、ソフィアに向かっていく。

ドイツ警察のエリック達、ラーク達（アクション）

ドイツ警察が全員捕まえる。
ソフィアはイレーネを捕まえている。
マーティンもエリックを捕まえている。

マーティン　すみません。
イレーネ　どうして・・・ねえ、どういうこと！
ソフィア　見てのとおりよ。
イレーネ　騙してたの・・・？ねえ！

ソフィア　それを、貴方が言うの？
イレエネ　え・・・？
ソフィア　ねえ、知ってる？一生分の裏切りは、一生続くのよ！
ローランド　・・・おい！俺達はお前のために、ここに来たんだぞ！

ニーナが入ってくる

ニーナ　ご苦労。

ニーナ、エリックの近くに行く。

ニーナ　エリック・ミュラー。マネーロンダリング及び、殺人の疑いで逮捕する。

エリック　殺人？俺は誰も殺してないぜ。そっちの奴は、そいつが殺したんだ。

ニーナ　フィリップを一瞥する。

ニーナ　・・・貴方は誰の話をしているの？

エリック　お前こそ、誰の話をしているんだ。

ラーク　ニーナ、放してください。なぜ私まで。

ニーナ　私は殺害命令は、出してはいないはずだが？

ラーク　私は殺してなどいませんよ。ほら、私だって撃たれてる。

奴がやったんだ、正当防衛ですよ。私は職務を全うしただけです。

ニーナ　ラーク・シュバルツ。今までご苦労だった。お前の、私達に捧げてくれた二年間、感謝に値する。お前は沢山の同胞を差し出してくれた。その点については礼を言おう。

ラーク　え・・・？

ニーナ　いつからか押収した金額が、どうも合わない案件が増えてきてな。そのうちの何件かはお前が担当していたものだった。しかもお前は私達の仲間まで売っていた。残念だ。

ニーナ 本当に・・・残念だ。

ラーク ……！

ニーナ 私はお前を白いものにしたかと思っていた。お前もそれを。目指していると思っていた。ねずみなど幾らでもいる。幾らだつて作れる。お前もそうだったろう？・・・ラーク・シュバルツ、二重スパイの刑で逮捕する。

ラーク 違う！・・・違う！だったら俺はフィリップを殺したりしていい！こいつが元締めだ！俺が情報を渡す相手はもう・・・！

ニーナ そうか。では殺人も罪状に加えておこう。

ラーク ……！

ニーナ 全員、連れていけ。

次々と連れ去られて行く中、マーティンが取り残される。

ニーナ ご苦労だった。怪我は？

マーティン ……たいしたことありません。

ニーナ そう、良かったわ。じゃあ、行くわよ。

マーティン ……そんな簡単に・・・。そんな簡単に言わないでくれ！俺はみんなと一緒に暮らしてたんだ！・・・子供の頃からの、友をも裏切った。

ニーナ ……本来だったらシュタージだった貴方は、警察に入ることはできない、だから私の課に配属になった。全うできなきゃ、貴方はただの、過去の遺物よ。

マーティン わかっています。貴方に言われなくても。

ニーナ モディアノの小説に、こんな台詞があったわね。「裏切り者の目は決まって澄んでいる」。じゃあ、私はどうかしら？・・・濁っているかしら？それとも？

マーティン ニーナの目を見る

溶暗

十三場

下手サス 加藤がいる。

加藤

団地を見ると、今でも泣きそうになります。

子供の頃、階段で幼馴染と遊んだこと。隣のおばちゃんがくれた煮物のお裾わけ。上の階のおじちゃんが、キャッチボールしてくれたこと。ふいに子供の頃にタイムスリップしたような気持ちになります。いや、多分私が帰りたいのです。ただ、ただ助け合って生きることができた、あの、あたたかな・・・。

加藤、本の表紙を再度見せる。

加藤

この本の企画を通すには、とても長い年月がかかりました。流れを変えてくれたのは、小さなコラムでした。私の東ドイツに対する思いと子供の思いを綴ったものです。そのコラムは思いのほか反響を呼び、だんだんと楽しみしてくれる人が増えていきました。思い返せば東ドイツの存在を知ってから、ここにくるまでに、二十年。長いようで、あっという間でした。世界は思いもよらない速度で変わっていきました。・・・私は何も変わっていないのに。

加藤、本を開く。

加藤

では、本に戻りましょう。警察に捕まった日の、夜の話に。

サス消える。

加藤はける。

十五場

独房

エリック 地べたに座っている。

ラルフ 入ってくる。少し笑う。

エリック も笑う。

エリック とんだぎまだ。

ラルフ あと少しだったのにね。

エリック いや・・・。

花火の音が聞こえてくる

ラルフ 何の音・・・？随分騒がしいな。

エリック あれか？あれはな、マルクの消える音だ。

ラルフ マルクが消える？じゃあ今度はなんになるんだ？

エリック ユーロ、だそうだ。しかも今度はフランス、ベルギー、イ

タリア・・・あとなんだったかな。あらゆる国で、同じ通貨
を使うんだそうだ。

ラルフ そのユーロってやつを？意味がわからないな。ほんとに？

エリック 時代はどんどん進んでるってことだ。もう俺達のような商売
はなくなるってことさ。

ラルフ じゃあ、どうするんだ。

エリック さあな。

歓声、花火の音

ラルフ ああ、この感じ・・・懐かしいな。

エリック パレードが？

ラルフ あの時壁が壊れるなんて、思いもしなかった。

エリック あれからもう十一年だ。もうすっかり俺も、おじさんだ。

・・・お前は変わらないけど。

ラルフ それが変わるんだよ。俺の遺体が、掘り起こされたんだ。

大きな花火の音

エリック ・・・何を言ってるんだ？

ラルフ まあ、聞いてよ。ここからが面白いんだ。あのゴミ処理場覚

えてる？・・・お前が銃を投げ入れた、あの釜を。

エリック 俺が銃を投げ入れた？・・・何の話だ。

ラルフ あの時、俺達は大きな勘違いをした。・・・あの足音。沢山

のシュタージがきたと、思った。迫り来る、あの足音を聞きながら、兄貴は言った。・・・もう終わりだ。・・・もう終わりだ、俺達はこのまま殺されて、それで終わりだ。奴らは簡単には殺してくれない。そんな思いをさせられるくらいなら・・・一緒に逝こう（同時）。

ラルフ 一緒に逝こう。

エリック 俺も、俺もすぐに行くから・・・。

ラルフ ・・・。

エリック ・・・。

ラルフ やつと思いついたか。

エリック ・・・じゃあ、・・・じゃあ、なんで俺は生きてるん

だ・・・？あの時俺は・・・抵抗した。・・・抵抗したはずだ。そう・・・見くびるな、見くびるな、俺は生きたい、勝手に決められてたまるか！・・・そうだ、俺は向けられた銃をとっさにひっくり返した！バンって音がして、弾が・・・。

ラルフ、微笑んでいる。

エリック、自分の胸を確認する。傷はない。

エリック これは誰の記憶だ？俺の身体に傷はない・・・。お前誰

だ・・・？いや、俺は・・・誰だ・・・？

ラルフ

そうだな、お前は・・・そうだ、ぬいぐるみが好きだった。器用でルカのためにぬいぐるみを作ってた。それから俺と違って、身体が少し弱かった。いつも俺の後をひつついてきた。俺達はいつも一緒だった・・・。

エリック

エリック！！やめてくれ！俺が悪かった！俺が・・・！

エリック、うずくまる。

ラルフ

なあ、ラルフ、あの工場あたりは、道路になるんだそうだ。取り壊していたら、銃の破片が出てきたんだそうだ。俺は撃たれているのに肝心の銃は出てこなかった。ラルフ。お前が燃やしたから。

エリック

・・・。

ラルフ

あのシュータージもな、奇跡的に意識が戻ったらしい。とんだタイミングだな。・・・そこで、再捜査が行われることになったんだそうだ。

ラルフ、銃を差し出す

ラルフ

あの時の銃だ。

エリック

・・・！

エリック、銃を手取る。震えている。

一度銃を自分に向けるが死ねない。

ラルフ

怖いか、ラルフ。

エリック

・・・確かに、俺は兄貴を殺した。だけどあれは・・・正当防衛だ。

ラルフ

驚いた後、笑う。

エリック

俺はもう守ってもらわなくても、生きていけるんだよ！

エリック！

ラルフ　　そうか。どうするんだ、これから。

エリック　　なんとでもなるさ。生きてさえいれば。

ラルフ　　生きてさえいれば。

エリック　　・・・。

ラルフ　　ここは随分と窮屈だな。俺が生きていた頃とどちらが窮屈かな。

エリック　　・・・どうだろうな。ここは金があれば、全てが手に入る。

ラルフ　　だけど金がなければ、何も手に入らない。皆で仲良しこよしで生きていけた、東とは違うんだ！

エリック　　口喧嘩すら嫌いだったお前が、そんなになるほどにか。

ラルフ　　そうだ。

エリック　　そうか。

　　歓声。

ラルフ　　あの時も・・・どっから湧いてきたんだってくらい人が

いて、皆口々に叫んでたな。新しい時代がくるって。まるで、無条件に幸せが降ってくる、みたいな喜びようだった。・・・

なあ、ラルフ。

・・・。

俺に名前を、返してくれ。

・・・エリック。

俺に人生を、返してくれ。

嫌だ・・・！

お前、少しは俺の。

俺達はいつも一緒だった、そうだろ、それに今更。

ラルフ。

嫌だ。

お前、今、俺がいなくても生きていけるって、言ったじゃないか。

・・・。

なあ、ラルフ。これからの人生の方が、ずっと長い。

エリック

ラルフ

ラルフ 十一年なんて、きつとあつという間だ。俺は死んだ人間だ。エ

リック・ミューラーはもういない。お前はお前を、取り戻さなきゃならない！

エリック 俺が殺したから兄貴は死んだんだ！兄貴は、一緒に死んでく

れようとしたのに、俺だけが生き延びた。だから！

ラルフ ラルフ、もう無理なんだよ！

ラルフ、エリックを抱きしめる。

ラルフ ……お前、今回、指紋取られただろ。お前、昔、病院で指

紋取られたことあつたろ。撃たれた時、調べるために俺は警察でホルマリン漬けにされた。十一年経った今でも、綺麗なままの俺の遺体を調べてる奴が、言ってたよ。双子つてのはDNAは一緒だけど、指紋は、……違うんだって。

ラルフ、銃をしっかりとエリックに握らせる

ラルフ 俺もそのうち出てこれなくなる。多分な。掘り起こされてか

らなんだか、いろんなものがよく見えるんだ。より自由になつて、より不自由になった。何よりお前のお守りはもう疲れた。……いい加減眠らせてくれないか。

エリック ……わかったよ、兄貴。今度こそ本当に、弔つてやる。

エリック、ラルフに銃を向ける。

ラルフ、微笑みながら、両手を挙げる。

火花が打ち上がる。溶暗。

エピソード

暗転幕が引かれている。

加藤が出てくる。

加藤

長い間、お付き合いいただいてありがとうございます。この裁判は兄弟が入れ替わっていたこと、シュタージが関わっていたこと、などもあり、結構注目を浴びたようです。裁判の結果は、ここでは詳しくお伝えはしません。興味がある方は調べてみてください。・・・では最後に、私が最初にラルフさんと会ったところで皆様とお別れしたいと思います。本日はご来場いただき、誠にありがとうございました。

加藤、上手にはける。

暗転幕が上がる。

墓地。

墓がある。ベンチもある。

下手、墓石の前の花にラルフ（50代）と加藤がいる。
ラルフは帽子をかぶっている。

加藤

ラルフさんが？これ全部、手入れを？

ラルフ

そう。

加藤

なんですすつけ、この花。

ラルフ

ガーベラだよ。

加藤

・・・綺麗ですね。

ラルフ

兄が、好きな花だね。

加藤

お兄様の・・・！

ラルフ

そう。双子の兄のね。

加藤

そうですか・・・。

加藤、墓石に小さなブーケを置く。

加藤 初めまして。私、飯倉出版の加藤裕史と申します。弟様には取材など、いろいろとお世話になっております。・・・あ。ラルフ・ミュラー、エリック・ミュラー・・・一緒に彫ってるんだ。お兄様、エリックさんって言うんですね。

ラルフ

そう。

加藤 ・・・・ここは、いいところですね。

ラルフ ここは町が一望できるし、緑も一杯あるし、散歩コースにはもってこいだ。

加藤 空気も・・・（空気を吸う）、いいですね。なごみます。

ラルフ それは良かった。この空気が綺麗になるまで、結構かかった

んだ。昔は工場の排気で、空もこんなに澄んでなくてね。

加藤 ええ？

ラルフ 何もかもが変わっていった。この三十年ほどで。

加藤 すごい時代でしたね。本当に。

ラルフ ええ。

加藤 僕ですら、よく覚えていますよ。TVで見た、ベルリンの壁が崩壊した時の、あの、もの凄い熱狂。ユーロが施行された年の、パレードの歓声を。ドイツが統一されて、今度はヨーロッパの通貨統一だ。激動ですね。

ラルフ

そうだな。・・・ベルリンの壁が、崩壊して、誰もが、幸せになれると、思った。壁の向こうの、西のように。この東も豊かで幸せになれると、信じていた。・・・世界中の人が祝福してくれた、あの日。自由と退屈が押し寄せてきた、あの日。

・・・俺は祖国を失った。俺が生まれ育った国は、歴史の中にか存在しなくなってしまう。みんな貧乏だったけど、なんでも皆と一緒にやって、足りないものはお互い貸しあって、競争なんかすることなく、ただ、ただ、助け合って生きることができた、あの、温かな・・・いや、誰がなんと言おうと、俺は東ドイツの人間だ。それは生涯、変わることはないだろう。では、その東ドイツの話を、これからお聞かせ願えますか？

加藤

ラルフと加藤、微笑む。

終わり。

◆ 参考文献

書籍

- ・ ぷくもとまさお・小さな革命・東ドイツ市民の体験：統一のプロセスと戦後の二つの和解・有限会社 言叢社，2015，349p.
- ・ スザンネ・ブッテンベルク，トーマス・ヘンゼラー・ベルリン 分断された都市・エドガー・フランツ，深見麻奈訳・株式会社 彩流社，2013，95p.

WEB

- ・ 浅見佳・“裸の東ドイツ”・カクヨム・2016-7-13.
<https://kakuyomu.jp/works/1177354054881111406>，（参照 2018-07-30）.
- ・ 新井麻里・“ドイツ・ボン 特派員ブログ：火葬？土葬？ドイツのお墓事情
- 地球の歩き方

”・2016-10-10. https://tokuhain.arukikata.co.jp/bonn/2016/10/grave_stone.html，（参照 2018-07-30）.

・ ウィキペディア・“シュタージ”・ウィキペディア・2019-3-17.

<https://ja.wikipedia.org/wiki/シュタージ>，（参照 2018-07-30）.

・ AFP BB ニュース・“ニュース 社会：旧東ドイツ数万人に欧米製薬企業が臨床試験、死者も発生か”・AFP BB ニュース・2013-5-13.

<https://www.afpbb.com/articles/-/2943762>，（参照 2018-07-30）.

・ 神谷毅・“with news: 「聞はまだ広がっている」東ドイツドープینگ被害者の告白”・with news. 2016-8-21.

<https://withnews.jp/article/f01608210000q0000000000000000W04810101qq0000013876A>,

（参照 2018-07-30）.

映画

- ・ 監督ヴォルフガング・ペツカー 脚本ベルント・リヒテンベルク 「グッバイ、レーニン！」
- ・ 監督クリスティアン・ペッツォルト 脚本 クリスティアン・ペッツォルト
- 「東ベルリンから来た女」

◆引用

・パトリック・モディアノ・エトワール広場／夜のロンド・有田英也訳・作品社, 2015, 193p.

※ P 89 ニーナの台詞 24行目